

小学校の先生のための

# 体育科 授業づくり ハンドブック

～授業設計力向上にむけて～



令和2年 10月

神奈川県立総合教育センター  
体育指導センター

# はじめに

小学校の先生が身に付けるべき能力の1つに、授業をつくる力（本ハンドブックでは**授業設計力**という）があります。しかしながら、授業をつくることは、経験の少ない初任の先生には、大変難しく感じられ、「どのように授業をつくれればよいのか？」と悩む先生もいるのではないのでしょうか。まず、学習指導要領や同解説を読むことから始まり、単元で扱う運動やスポーツの特性等を理解すること、指導内容を明確にし、評価規準を設定すること、そして具体的な学習活動や発問を考えることなど、一連の授業づくりは本当に大変なことだと思います。そのような先生方の授業づくりの一助になればと思い作成したのが、この「**体育科授業づくりハンドブック**」です。

授業をつくる際、「何を教えたらいいの?」、「どうやって教えたらいいの?」といったことを考えるかと思います。本ハンドブックは、授業づくりの手順書として作成してあります。第1章を読み進めながら授業を設計していくことで、「学習指導案」が作成できるようになっています。また、読み進めていく過程で、わからない用語が出てきた場合は、第2章「すぐに知りたいQ&A」を読み、確認できるように構成しました。ここでは、「体育科」にかかわる学習指導要領及び同解説（体育編）や中央教育審議会答申、文部科学省発行資料などに記載されている用語を説明しています。

第1章掲載の「学習指導案」の様式につきましては、学校ごとに異なることもあると思いますが、授業づくりを具体的にイメージしてもらえよう、サンプルとして示しました。実際に使用する様式に読み替えて、単元計画や本時案の作成に役立ててください。

なお、本ハンドブックでは、文部科学省国立教育政策研究所発行の資料（「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料）にある事例の解説を元に（一部修正あり）、説明をしています。

日々の授業は学校の教育活動の根幹をなす部分です。ぜひ、このハンドブックを軸に、学習指導要領解説体育編や「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料等を参照しながら、授業をつくっていただき、授業をつくる力（**授業設計力**）を向上させていただきたいと思います。

## ◆注意

本ハンドブックに示した手順や様式等は、あくまで参考としてください。市町村や学校の実態に合わせて、ご活用ください。

◆次の用語は、本ハンドブックでは、  
次のように省略されています

小学校学習指導要領（平成29年告示）<sup>1)</sup> → **要領**  
小学校学習指導要領（平成29年告示）解説体育編<sup>2)</sup> → **解説**



## 本ハンドブックの活用にあたって

あなたのお悩みを解決！日頃のお悩みは、次のページへGO！！

本ハンドブックは、

「第1章 学習指導案の作成（単元として授業を設計しよう）」

「第2章 すぐに知りたいQ&A（用語を知ろう）」

の2つの章からなっています。

ハンドブックの形式をとっていますので、必要に応じ、どこからお読みいただいても構いません。

※活用においては、見開きページで使っていただくことを想定しています。プリントアウトしてお使いください。

単元として授業を設計  
するって？

【第1章】

→ P. 7 へ

学習指導案が書きたい！

【第1章】

運動領域 → P.9 へ

保健領域 → P.17 へ

指導と評価の一体  
化って？

【第1章】

→ P. 14 へ

運動領域、保健  
領域って何か  
変わったの？

【第2章】

→ P.32 へ

育成を目指す  
資質・能力って？

【第2章】

→ P.27 へ

体育科における  
主体的・対話的で  
深い学びって？

【第2章】

→ P.30 へ

見方・考え方っ  
て？

【第2章】

→ P.31 へ

その他にも**すぐに知りたい**用語の解説が満載！

## 体育科改訂の要点

◆要領の改訂を受け、体育でも具体的な修正が加えられました。要領に記載されている体育科の目標をもとに、「体育とは何を学ぶ教科なのか」を整理しましょう。<sup>3)</sup>

### 要領

#### 体育科の目標

体育や保健の見方・考え方を働かせ、課題を見付け、その解決に向けた学習過程を通して、心と体を一体として捉え、生涯にわたって心身の健康を保持増進し豊かなスポーツライフを実現するための資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

- (1) その特性に応じた各種の運動の行い方及び身近な生活における健康・安全について理解するとともに、基本的な動きや技能を身に付けるようにする。
- (2) 運動や健康についての自己の課題を見付け、その解決に向けて思考し判断するとともに、他者に伝える力を養う。
- (3) 運動に親しむとともに健康の保持増進と体力の向上を目指し、楽しく明るい生活を営む態度を養う。(下線は筆者)

P. 31

#### 見方・考え方を働かせ

どのような視点で物事を捉え、どのような考え方で思考していくのか。

P. 30

#### 課題を見付け、その課題に向けた

#### 学習過程を通して

「主体的・対話的で深い学び」を目指した学習

P. 31

#### 豊かなスポーツライフを実現するための資質・能力

小学校から高等学校まで一貫して目指すべきキーワードとして位置付けられた。

P. 36

#### 特性に応じた各種の運動の行い方

各運動で味わえる楽しさや魅力と、その結果、その運動で学べる（身に付けられる）こと

#### 運動の行い方について理解する

「運動の行い方」として理解すること。  
小学校では知識と技能を切り離さないことが大切だと考えられる。

#### 基本的な動きや技能を身に付ける

これまでの「できるようにする」から「身に付ける」となった。「身に付ける」とは何度やってもできるという「定着」している状態をいう。

#### 他者に伝える力を養う

- 言語活動では「教え合う」より、まずは「動きの事実を伝え合う」活動を重視する。
  - ・子どもの技能の高さに関係なく、お互いに言葉を掛けられるため、対話につながりやすい。
- 言語活動による「表現」に加え、体育特有の「表現」も大切にする。
  - ・思考判断した上での表現（プレー、場づくり、練習の工夫）や、アイコンタクトなど。

## まえがき

### 「体育の意義と実践的指導力の向上」

桐蔭横浜大学 佐藤 豊 教授

Society5.0と言われる高度AI社会の到来に向けて、確かな学力の柱とされる「知識及び技能」「思考力、判断力、表現力等」「学びに向かう力、人間性等」の育成と学習評価の充実が求められています。「知識及び技能」「思考力、判断力、表現力等」は、認知的能力とも呼ばれ、学歴、正規雇用、将来賃金などとの相関がみられるなどの研究分野でも着目されています。一方で、第3期教育振興基本計画では引き続き「確かな学力、豊かな人間性、健やかな体の育成」が示されています。現在、見える学力に注目が集まりがち



ですが、「学びに向かう力、人間性等」は、非認知的能力とも呼ばれ、「非認知的（社会情緒的）能力の発達と科学的検討手法についての研究に関する調査報告書（2017.3）」（国立教育政策研究所）等では、これらの双方を育む重要性について世界で公表された論文を分析しています。社会的情緒スキルとも定義される非認知的能力は、家庭における幼児教育段階の影響が挙げられますが、同報告書では、高校での無遅刻の生徒や運動系部活動加入経験のある生徒の優位性などの学校教育における体験の重要性への指摘もみられます。他方で、SDGsなどの新たな用語にみられるように、「誰一人取り残さない社会の実現」が求められており、共生社会の実現に向けて児童期から、資質・能力の3つの柱がバランスよく育成されることがますます重要と言えます。

体育学習は、身体活動や他者との関わりを通して、これらの資質・能力を総合的に育むことの可能性を秘めた教科であり、「学びに向かう力、人間性等」の具体的な指導内容として、公正や協力、共生などの具体的な指導内容が示されています（小学校では体育科と生活科のみ）。実体験の中で生じる困難への挑戦や他者とのぶつかり合い、それらを経た先にある相互援助や他者への配慮などの学びの経験は、学級経営にも直結する重要な原体験となります。

高橋（1991）は、よい体育授業の条件として、一般的に基礎的条件（学習規律の確立、マネジメント、受容的雰囲気、情緒的開放）と内容的条件（目標や内容の明確化、教授技術、教材等）を挙げていますが、それらを教師力として高めていくためには、よい授業を設計し、実践し、評価する活動を充実させ、自らの実践的指導力を高めていくことが求められています。実践的指導力は、授業設計力、授業実践力、省察力から構成される（佐藤2016）と考えられますが、本ハンドブックでは、授業設計力に焦点を当てて学習指導要領（解説）の解釈、評価規準の作成方法、学習指導案（本時）をわかりやすく説明する中で、カリキュラム・マネジメントの視点や指導内容の単元での指導や評価の機会の考え方、児童の状況に応じた手立てなど授業設計に必要な情報が盛り込まれています。「何を教えるのか」「どのように教えるのか」「どのように評価し次につなげるのか」を一連のプロセスとして俯瞰する「授業設計力」を高めていきましょう。



## 目次

はじめに	P. 1
本ハンドブックの活用にあたって	P. 2
体育科改訂の要点	P. 3
まえがき「体育の意義と実践的指導力の向上」 桐蔭横浜大学 佐藤 豊 教授	P. 4
目次	P. 5
<b>第1章 学習指導案の作成（単元として授業を設計しよう）</b>	P. 7
手順1 <b>要領及び解説</b> の記載内容を把握する	P. 7
【運動領域】 学習指導案の記載例	P. 9
手順2 単元について整理する	P. 10
手順3 単元の目標を設定する	P. 12
手順4 単元の評価規準を設定する	P. 12
(1)「単元の目標」から「評価の視点」を整理する	
(2)「指導の計画」を立案する	
(3)「単元の評価規準」を作成する	
手順5 指導と評価の計画を作成する	P. 14
手順6 本時の展開を構想する	P. 16
【保健領域】 学習指導案の記載例	P. 17
手順1 <b>要領</b> の記載内容を把握する	P. 18
手順2 単元について整理する	P. 18
手順3 単元の目標を設定する	P. 19
手順4 単元の評価規準を作成する	P. 22
手順5 指導と評価の計画を作成する	P. 24
手順6 本時の展開を構想する	P. 26

第2章 すぐに知りたいQ&A (用語を知ろう)	P. 27
Q1 学習指導案作りって、何を参考にしたらいいですか？	P. 27
Q2 育成を目指す3つの資質・能力とは何ですか？	P. 27
Q3 体育科における知識及び技能、思考力、判断力、表現力等、学びに向かう力、人間性等を指導する際のポイントは何ですか？	P. 29
Q4 体育科における主体的・対話的で深い学びとは何ですか？	P. 30
Q5 見方・考え方とは何ですか？	P. 31
Q6 運動領域、保健領域の指導内容の主な変更点は何ですか？	P. 32
Q7 新しい学習評価の考え方は？	P. 33
Q8 評価の仕方や考え方はどのようになりますか？	P. 34
Q9 障害のある児童、または運動が苦手な児童や運動に意欲的でない児童への支援はどのようにしたらいいですか？	P. 35
Q10 領域ごとの運動やスポーツの特性は何ですか？	P. 36
Q11 カリキュラム・マネジメントとは何ですか？	P. 37
Q12 効果的な発問にはどのようなものがありますか？	P. 38
Q13 学びに向かう力、人間性等とは何ですか？	P. 38
Q14 12年間の系統性と校種間の連携とは何ですか？	P. 39
Q15 年間指導計画はどのように立てたらいいですか？	P. 39
参考1 学習場面における具体的な姿の設定について	P. 44
2 【運動領域】学習指導案フォーマット	P. 49
3 【保健領域】学習指導案フォーマット	P. 51
4 授業設計力チェックリスト	P. 53
5 授業の基本チェックリスト	P. 54
6 新型コロナウイルス感染症対策について	P. 56
引用・参考文献	P. 58

先生方の  
授業づくりを  
応援します！！



# 第1章 学習指導案の作成（単元として授業を設計しよう）

この章では、学習指導案作成の流れについて見ていきましょう。

**手順1**は、学習指導案作成に入る前の準備段階として、「何を教えるのか」を把握します。

**手順2**以降は、「何を教えるのか」とともに、「どのように指導・評価するか」を整理し、学習指導案を作成していきます。見開き左のページに学習指導案の記載例、見開き右のページにはその解説があります（わからない用語や、もっと知りたいことについては、右端のQを参考に、該当するページを参照してください）。



## 手順1 要領及び解説の記載内容を把握する

解説の読み方→ P. 28

ここでは、次の「内容のまとめり」、「単元」を例に説明していきます。

内容のまとめりとは→ P. 8

〈内容のまとめり〉器械・器具を使つての運動遊び    〈単元名〉マットを使った運動遊び

第2章各教科 第9節体育（P. 140）  
第1学年及び第2学年 2内容 B 器械・器具を使つての運動遊び<sup>2)</sup>

### 要領

器械・器具を使つての運動遊びについて、次の事項を身に付けることができるよう指導する。

- (1) 次の運動遊びの楽しさに触れ、その行い方を知るとともに、その動きを身に付けること。  
イ マットを使った運動遊びでは、いろいろな方向への転がり、手で支えての体の保持や回転をすること。
- (2) 器械・器具を用いた簡単な遊び方を工夫するとともに、考えたことを友達に伝えること。
- (3) 運動遊びに進んで取り組み、順番やきまりを守り誰とでも仲よく運動をしたり、場や器械・器具の安全に気を付けたりすること。

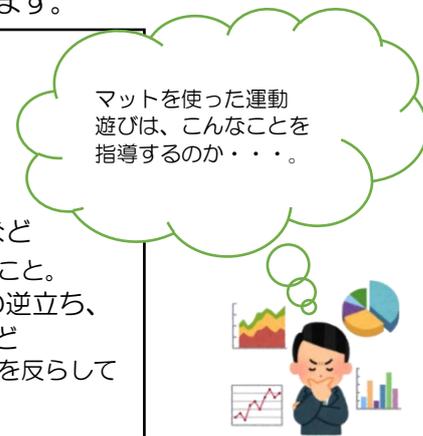
◆ (1) は知識及び技能、(2) は思考力、判断力、表現力等、(3) は学びに向かう力、人間性等の内容を表しています。解説には、例示などさらに具体的な記載があります。

### 解説

(抜粋) (P. 46～)

(1) 知識及び技能    〔例示〕

- ゆりかご、前転がり、後ろ転がり、だるま転がり、丸太転がりなど
  - ・ マットに背中や腹をつけて揺れたり、いろいろな方向に転がったりすること。
- 背支持倒立（首倒立）、うさぎ跳び、かえるの足打ち、かえるの逆立ち、壁登り逆立ち、支持での川跳び、腕立て横跳び越し、ブリッジなど
  - ・ 手や背中で体を支えているいろいろな姿勢で逆立ちしたり、移動したり、体を反らしてブリッジをしたり、友達がつくったブリッジをくぐったりすること。



内容のまとめとは

体育科における「内容のまとめ」とは、要領の「2 内容」の項目等をそのまとめごとに細分化したり整理したりしたものです。

【第1学年及び第2学年】	【第3学年及び第4学年】	【第5学年及び第6学年】
A 体づくりの運動遊び	A 体づくり運動	A 体づくり運動
B 器械・器具を使った運動遊び	B 器械運動	B 器械運動
C 走・跳の運動遊び	C 走・跳の運動	C 陸上運動
D 水遊び	D 水泳運動	D 水泳運動
E ゲーム	E ゲーム	E ボール運動
F 表現リズム遊び	F 表現運動	F 表現運動
	G 保健(1) 健康な生活	G 保健(1) 心の健康
	G 保健(2) 体の発育・発達	G 保健(2) けがの防止
		G 保健(3) 病気の予防

内容を低・中・高学年の三段階で示すことにより、各学年での運動の取り上げ方や年間計画においても弾力性をもたせることができる構成になっています。

◆「内容のまとめごとの評価規準」を作成する

2学年にわたって指導した内容が児童に身に付いた姿を明らかにします。

要領の「2 内容」の記載事項の文末を「～すること」から「～している」に変えて作成できます。また、国立教育政策研究所作成の『指導と評価の一体化』のための学習評価に関する参考資料から、引用することもできます。<sup>4)</sup>

「内容のまとめごとの評価規準(例)」<sup>4)</sup>

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<p>次の運動遊びの行い方を知っていると、その動きを身に付けている。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>固定施設を使った運動遊びでは、登り下りや懸垂移行、渡り歩きや跳び下りを<u>している</u>。</li> <li>マットを使った運動遊びでは、いろいろな方向への転がり、手で支えての体の保持や回転を<u>している</u>。</li> <li>鉄棒を使った運動遊びでは、支持しての揺れや上がり下り、ぶら下がりや易しい回転を<u>している</u>。</li> <li>跳び箱を使った運動遊びでは、跳び乗りや跳び下り、手を着いてのまたぎ乗りやまたぎ下りを<u>している</u>。</li> </ul>	<p>器械・器具を用いた簡単な遊び方を工夫するとともに、考えたことを友達に<u>伝えている</u>。</p>	<p>運動遊びに進んで<u>取り組もうとし、順番やきまりを守り誰とでも仲よく運動をしようとしていたり、場や器械・器具の安全に<u>気を付けていたりしている</u></u>。</p>

## 体育科学習指導案

指導者 運動 一郎

1 日時・場所 令和2年6月11日(火) 5校時 体育館

2 学年・組 2年4組 30名

3 単元名 「マットを使った運動遊び」

単元とは?→ P. 10

4 単元について

手順2

※P10吹き出し参照

(1) 単元観

単元の指導内容や教材の特性 等

マットを使った運動遊びは、様々な動きに挑戦し、それらができる楽しさに触れることのできる運動遊びである。楽しさに触れ、その行い方を知るとともに、回転、支持、逆さの姿勢などの基本的な動きや技能を身に付けるようにし、3年生の「マット運動」の学習につなげていくことが求められる。また、楽しく行うために、簡単な遊び方を工夫するとともに、きまりを守り誰とも仲よく運動遊びをしたり、場や器械・器具の安全に気を付けたりすることなどができるようにすることが大切である。

(2) 児童観

当該の領域等における児童の実態 等

1年生の「マットを使った運動遊び」では、「いろいろなものにへ～んしん!」を合言葉に、ウマ歩き、うさぎ跳びなど手で体を支持しながら移動することや、丸太転がりやだるま転がりなどマットに背中や腹をつけていろいろな方向に転がることを学習している。単元の後半は経験した動きを児童が組み合わせ「〇〇さんが～した」といったお話を発表する活動も行っている。また、マットの準備や片付けの仕方、安全に行うための約束について単元全体を通して学習している。

(3) 指導観

(1)(2)を踏まえた具体的な指導の方法・方向性 等

1年生で身に付けた動きを毎時間の「感覚づくりの運動遊び」として行うことによって、児童が1年生の学習と本単元を関連付けることができると考える。単元前半は、既習の回転の動きを習熟したり組み合わせたりする時間とし、3・4時間目は1年生で学習していない背支持倒立や支持での川跳び、ブリッジといった逆さの姿勢や動きを身に付けさせることで3年生の「マット運動」の学習につなげていく。その際、手足の付き方や目線の置く位置を示したイラストや手本となる写真を用意し、動きのコツがつかめない児童が視覚的に捉えられるようにする。単元後半は1・2年生で学習した遊び方を組み合わせたり工夫したりする「マットランド」の活動を行い、自分の考えを友達に伝えたり友達の考えを聞いたりするとともに、他者に表現する力を養いたい。そのために、遊びの場の名前や説明、工夫について記入できる掲示カードを用意し、グループの考えたことが他の児童に十分に伝わるようにする。

## ◆単元とは？

手順1で確認した「内容のまとめ」が2学年にわたって指導する内容であるならば、「単元」は今回扱う数時間の指導内容のまとめりのことです。P. 40「年間指導計画の例 3学期」を見ると、低学年の「器械器具を使つての運動遊び」は、8つの単元（各学年4つずつ）から成り立っていることがわかります。

児童や各学校の実態に応じて、実際の授業を構想し、育成を目指す資質・能力を学習指導案に反映させていきましょう。

## 手順2 単元について整理する

## ◆単元観

単元の指導内容や教材の特性（運動領域では、当該の運動やスポーツの特性）を書きます。一般的な価値や特性に加え、児童から見た特性も書くとよいでしょう。

## ◆児童観

当該の領域等における児童の実態を書きます。単元の指導内容や教材に関する理解度、既習経験等も書くとよいでしょう。

## ◆指導観

指導内容や教材の特性を見極めながら、児童の実態を踏まえ、具体的な指導の方法・方向性を書きます。

目指す児童像に迫るための工夫点を書くとよいでしょう。例えば、「〇〇すること（工夫点）によって、□□になる（目指す児童像）と考える。」といった仮説の形で書いてもよいでしょう。

この3つの項目は、初任の先生方や初めて当該単元を指導する先生方にとって、特に頭を悩ませる項目かもしれません。初めは先輩の学習指導案を真似したり、文献等を参考にしたりすることになると思います。

単元観や児童観を書くことは、学習内容・教材がどのようなものなのか（例：この運動の特性は何か）、対象がどのような児童なのかを理解していくことです。

そして、指導観を書くことは、単元観、児童観を踏まえて、どのような授業（単元）を創るのかと、イメージを膨らませ、最終的には、学習の道筋（プロセス）や目指す児童の姿（ゴール）を明確にしていくことです。

悩みながらも、学習指導案を考え、実践と省察を重ねていくことで、単元観、児童観、指導観を書ける（語れる）ようになり、授業設計力が向上すると思います。



「内容のまとめ」と「単元」の違いに注意!

Q1 指導案作りは何を参考にしたらいいですか？

→ P. 27



Q7 領域ごとの運動の特性は何ですか？

→ P. 36

Q11 運動が苦手な児童への支援 →P. 35

※「4単元について」、検討することは必須ですが、学習指導案としては省略することもありません（説明はできるようにしておきましょう）。



手順3

要領の「2 内容」を参考に、設定することができる  
(太字は、要領の本文からの引用部分)

5 単元の目標 (学習のねらい)

- (1) マットを使った運動遊びの行い方を知るとともに、いろいろな方向に転がったり、手で支えての体の保持や回転をしたりして遊ぶことができるようにする。【知識及び技能】
- (2) マットを使った簡単な遊び方を工夫するとともに、考えたことを友達に伝えることができるようにする。【思考力、判断力、表現力等】
- (3) マットを使った運動遊びに進んで取り組み、順番や決まりを守り誰とでも仲良く運動をしたり、場の安全に気を付けたりすることができるようにする。【学びに向かう力、人間性等】

手順4

語尾は「～ができるようにする」と表記

6 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①マットを使った運動遊びの行い方について言ったり実際に動いたりしている。(知) ②マットに背中や腹などをつけていろいろな方向に転がって遊ぶことができる。(技) ③手や背中で支えて逆立ちをしたり、体を反らせたりして遊ぶことができる。(技)	①坂道やジグザグなどの複数のコースでいろいろな方向に転がることができるよう場を選んでいる。(思・判) ②腕で支えながら移動したり、逆さまになったりする動きを選んでいる。(思・判) ③友達のよい動きを見付けたり、自分で考えたりしたことを友達に伝えたり書き出したりしている。(表)	①動物の真似をして腕で支えながら移動したり、転がったりするなどの運動遊びに進んで取り組もうとしている。 ②順番やきまりを守り、誰とでも仲よく運動遊びをしようとしている。 ③場の準備や片付けを友達と一緒にしようとしている。 ④場の安全に気を付けている。

各観点とも複数個に細分した評価規準を想定するが、順序性を示すものではないことに留意する。

上記3つの観点の評価規準(計10個)は、どれも指導内容として解説の(P.44~50)例示等に概ね示されています。

- ・「知識・技能」は、「知識」、「技能」に分けて評価規準を設定します。
- ・「思考・判断・表現」は、「思考・判断」、「表現」に分けて評価規準を設定します。
- ・「主体的に学習に取り組む態度」は、各項目に分けて設定します。

- 「進んで～」(愛好的態度)
- 「きまりを守り、誰とでも仲よく～」(公正・協力)
- 「準備や片付けを、友達と一緒にする」(責任・参画)
- 「友達の考えを認める」(共生※)
- 「安全に気を付けている」(健康・安全)

※共生の視点は、低学年の目標には示されていませんが、参考に掲載しています(中学年以降の目標に示されています)。

1つの単元に全てを盛り込む必要はありません。

年間計画や低・中・高学年の2年間を見通し、バランスよく、評価(指導)を行いましょう!



要領→ P. 7ハ

手順3 単元の目標を設定する

「内容のまとめりごとの評価規準」の考え方等を踏まえて作成します。**要領**の「2 内容」\*1を参考に、設定することができます。

「内容のまとめりごとの評価規準(例)」→ P. 8ハ

手順4 単元の評価規準を設定する

「内容のまとめりごとの評価規準」をもとに、**解説**の表記などを用いて学習活動レベルに対応した「単元の評価規準」を作成します。「単元の評価規準」では、文末を次のように表記していきます。

技能	～できる
知識 思考・判断・表現、 主体的に学習に取り組む態度の「安全」	～している*2
主体的に学習に取り組む態度の「安全」以外	～しようとしている

〔知識・技能〕を例に、作成の流れを見ていきましょう。

(1) 「単元の目標」から「評価の視点」を整理する

ア 「単元の目標」の語尾を評価規準の語尾に変換する。

マットを使った運動遊びの行い方について知っているとともに、いろいろな方向に転がったり、手や背中で支えての体の保持や回転をしたりして遊ぶことができる。

イ 「知識」と「技能」に分け、具体化する（太字は上記からの引用部分）。\*3

- ・ **マットを使った運動遊びの行い方**を知っている。（知識）
- ・ **マットに背中や腹などをつけて**いろいろな方向に転がったり、手や背中で支えて逆立ちをしたり、**体を反らせたり**するなどして遊ぶことができる。（技能）

(2) 「指導の計画」を立案する

児童の実態を踏まえ、単元の目標の達成に向けた指導の計画を作成します。指導する内容の順序や指導にかけることができる時間等を考慮した学習過程とし、無理のない計画を作成しましょう。

時間	1	2	3	4	5	6
0 ↓ 45	・オリエンテーション ・感覚づくりの運動遊び ・学習カードの使い方	・前転がり ・後ろ転がり ・だるま転がり ・丸太転がり ・転がり方を組み合わせる	・腕支持での川跳び ・腕支持での平均台遊び ・川跳びからの腕立て横跳び越し	・さかさまになる動き ・さかさまからのブリッジ	・グループでマットランドを作る ・作ったランドをグループ間で紹介し合う	・他のグループが作ったランドで楽しむ ・もっと楽しいランドになるよう工夫する

(3) 「単元の評価規準」を作成する

「内容のまとめりごとの評価規準」と「指導の計画」における児童の活動を考慮し児童の学びの姿としてより具体化した「単元の評価規準」を作成します。

\*1 **解説**においては、「知識及び技能（運動）」「思考力、判断力、表現力等」「学びに向かう力、人間性等」の見出しの後に、で示されています。  
→ P. 28

\*2 「知識」について、低学年は「言ったり、実際に動いたり」中・高学年は「言ったり書いたり」と実態に合わせる。

\*3 具体化する 段階では、**解説**の[例示]が参考になります（下線部は**解説**のP. 46～47に示されています）。



Q3 体育科における知識及び技能、思考力、判断力、表現力等、学びに向かう力、人間性等を指導する際のポイントは何ですか？  
→ P. 29

手順5

単元のうち、いつ、どの場面で何をどのように見取るかの計画

7 指導と評価の計画

時間	1	② (本時)	3	4	5	6
ねらい	いろいろな運動遊びに取り組み、動きの楽しさ味わう。		友達の動きの良さを見付ける。		学習した遊び方を工夫したり組合せたりする。	
0	オリエンテーション ・学習内容の確認 ・安全の約束の確認 ・場の準備や片付けの仕方の確認	場の準備→準備運動(感覚づくりの運動遊び)				
	感覚づくりの運動遊びの紹介	ころころランド ・前転がり ・後ろ転がり ・だるま転がり ・丸太転がり	ぴよんぴよんランド ・腕支持での川遊び ・腕支持での平均台遊び	さかさまランド ・跳び箱を使って ・肋木を使って	マットランドで楽しもう ・グループでマットランドの場を作って楽しむ ・作ったランドをグループ同士で紹介し合っ楽しむ	他のグループが作ったランドで楽しむ ・もっと楽しいランドになるよう工夫する ・動きのバリエーションを楽しむ
45		振り返り→遊びのバリエーションの紹介				
		振り返り→遊びのバリエーションの紹介	川跳びからの腕立て横跳び越し	さかさまからのブリッジ		
		振り返り→整理運動→片付け				
知・技		②●観察・ICT	③●観察	①●観察		
思・判・表			③●観察・カード		①●観察	②●観察
態度	①②③④ ●観察	③●観察		①●観察・カード	②●観察・カード	

指導(学習)の計画

指導・評価の計画

【指導・評価に関する補足】○指導の中心となる時間●評価の中心となる時間

1時間につき1~2程度の評価観点にするなど、評価をするに当たり無理のない計画を立てる。

8 本時について(本時2/6)

(1) 本時の目標

- ・マットに背中や腹などをつけていろいろな方向に転がって遊ぶことができるようにする。(知識及び技能)
- ・場の準備や片付けを友達と一緒にすることができるようにする。(学びに向かう力、人間性等)

語尾は「~ができるようにする」と表記

**手順5 指導と評価の計画を作成する**

いつ、どの場面で、何をどのように見取るか、の計画を立てます。

指導計画の下に評価の計画を重ね合わせ、「指導と評価の計画」を完成させます。

◆指導したことを評価することが学習評価の基本です。

技能や主体的に学習に取り組む態度は、指導してすぐに身に付くものと、そうでないものがあるという考えから、一定期間を置いて評価をすることがあります。

例：〔2時間目〕の〔ころころランドで遊ぶ場面〕で、本時に指導した〔知識、技能の評価②〕を〔観察とICT〕で見取る。⇒指導と同じ時間に評価を行う  
〔準備と片付けの場面〕で、1時間目に指導した〔主体的に学習に取り組む態度の評価③〕を〔観察〕で見取る。⇒指導と別の時間に評価を行う

知識や思考・判断・表現は、指導したことをその日のうちに評価することが望ましく、観察だけでなく、多面的な評価の材料を集めましょう。

例：〔3時間目〕の〔振り返りと遊びのバリエーションを紹介する場面〕で、本時に指導した〔思考・判断・表現③〕を〔観察と学習カード〕で見取る。

◆指導と評価の一体化とは？

学習評価は、指導の改善を図るための情報として捉えていくことが重要です。指導や学習の過程において、その到達状況を常に確認していく必要があります。<sup>5)</sup>

<b>診断的評価 (はじめ)</b>	学習前の状況を「診断的に」評価します。既習の学習内容やこれから行う運動に対する好き嫌いを測るアンケート、単元最初の「試しのゲーム」などがあります。その様相をもとに単元を最適化していきます。
<b>形成的評価 (なか)</b>	学習の過程を「形成的に」評価します。子どもたちを見取り、フィードバックすることです。(つますきを把握し、手立てを講じる)
<b>総括的評価 (おわり)</b>	授業の成果を単元の区切りとして総括的に評価します。ここでは、学習の過程において児童が学んだことを総合的に意味付けすることが大切です。

「指導と評価の一体化」とは、学習のプロセスにおいて適切に評価し、必要に応じて指導を行うことが大切であり、評価と指導を一体的に、しかも不断に行いつつ、単元の終末においてはすべての子どもたちに、評価規準が実現するように努めることです。<sup>6)</sup>

◆本時の目標

単元の中の1時間として、この時間で児童に身に付けさせたい姿を明記します。この時間の指導や評価の中心とするものから設定し、文末を「～ができるようにする」と表記します。

Q7 新しい学習評価の考え方は？  
→ P. 33



Q8 評価の仕方や考え方はどうなりますか  
→ P. 34

**十分満足できる (A) の評価規準の設定の方法**

学習して理解したことに加え、自分の生活との関連を具体とともに示すことができれば「十分満足できる姿」と言っていじょう。

P.45 参照

(2) 本時の展開

手順6

分	●学習内容・活動（・予想される児童の反応）	指導上の留意点（○指導 □支援・配慮 ◆評価規準）
はじめ 7分	<ul style="list-style-type: none"> <li>●場の準備をする。                             <ul style="list-style-type: none"> <li>・グループで協力してマットを運ぶ。</li> <li>・場の配置図を見ながら、落ち着いて運搬する。</li> </ul> </li> <li>●感覚づくりの運動遊びをする。                             <ul style="list-style-type: none"> <li>・グループごとにイヌ歩き、ウマ歩き、ワニ歩き、しゃくとりむし、うさぎ跳び、カエルの足打ち、ゆりかご、ブリッジをする。</li> </ul> </li> </ul>	<p>指導上の留意点（○指導 □支援・配慮 ◆評価規準）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○4人組でマットを運んだり、2人組で踏切版を運んだりできるようにする。</li> <li>◆場の準備や片付けを友達と一緒にしようとしている（観察）</li> <li>□準備がうまくできていない児童を指導しながら、場の準備に取り組む態度を見取る。 <b>指導と評価</b></li> <li>○BGMを流しながら、一つ一つの動きをていねいに行うよう助言する。</li> <li>□首、腰、膝関節等のほぐしに留意する。</li> </ul>
なか 33分	<ul style="list-style-type: none"> <li>●ころころランドで楽しむ。</li> </ul> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;"> <p>めあて：ころころランドでいろいろな転がり方をして楽しもう。</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> <li>・基本となる転がり方をして遊ぶ。 前転がり 後ろ転がり だるま転がり 丸太転がり</li> <li>・工夫した転がり方をして遊ぶ。 忍者転がり 手つなぎ転がり ○○転がり（自由なネーミングで）</li> <li>・マットの形を変えて遊ぶ。 坂道マット ジグザグマット 正方形マット でこぼこマット</li> <li>●どんな転がり方ができたかを紹介する。</li> </ul> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>発問：どんな転がり方が楽しそうでしたか？ 先生や友達に紹介してくれるかな？</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> <li>・○○さんは手を着いた前転がり、手を着かない前転がりをしていた。</li> <li>・○○さんがいろいろな転がり方を組み合わせて回っていた。</li> <li>●いろいろな転がり方をしてさらに楽しむ。</li> <li>・友達の行い方を真似て、いろいろな場で転がって遊ぶ。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○本時のめあてを示す。</li> <li>○基本となる転がり方を紹介し、一人ずつ順番に行うようにする。</li> <li>◆マットに背中や腹などをつけていろいろな方向に転がって遊ぶことができる（観察、ICT） <b>指導と評価</b></li> <li>□うまく転がっていない児童に行い方を助言しながら、知識の有無を見取る。</li> <li>○児童からのアイデアを拾いながら、転がり方のバリエーションを広げるようにする。</li> <li>□前後の間隔や安全な転がり方に留意する。</li> <li>○児童の「楽しそう」「やりたい」を引き出し、マットの配置を変えたり、踏切版やボールなどを用いて傾斜や起伏を付けたりする。</li> <li>○自分や友達の楽しい転がり方を紹介し合えるようにする。</li> <li>□工夫した楽しい転がり方を紹介する。</li> <li>○場に「○○コーナー」など名前を付けて、児童が楽しく転がることができるようにする。</li> <li>□苦手な児童の転がり方のバリエーションが広がるように寄り添いながら指導する。</li> </ul>
まとめ 5分	<ul style="list-style-type: none"> <li>●学習を振り返る。                             <ul style="list-style-type: none"> <li>・自分の活動の振り返りをし、発表する。</li> </ul> </li> <li>●場の片付けをする。                             <ul style="list-style-type: none"> <li>・役割に合わせて、場の片づけをする。</li> </ul> </li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○学習カードをもとに、振り返るようにする。</li> <li>□友達の動きのよいところを認め合えるように言葉がけをする。 <b>指導と評価</b></li> <li>○友達と協力して安全に片付けるようにする。</li> <li>◆場の準備や片付けを友達と一緒にしようとしている（観察）</li> </ul>

手順6 本時の展開を構想する

◆学習活動の設定

学習活動を設定するためには、まず、**要領及び解説**から指導内容を確認し、児童の具体的な学習内容を設定します。学習内容を児童が身に付けるときにどんなことにつまずくかを考え、指導の工夫（教材・教具の準備）をします。それをもとに、児童がより効率的に学習内容を身に付けることができる学習活動を設定します。<sup>7)</sup>

学習活動は、先生方が様々な資料等を参考に設定することになります。その際、旧指導要領を基に作成されていますが、「小学校体育（運動領域）まるわかりハンドブック」等、文部科学省発行の各種指導資料集が参考になります（文部科学省ウェブサイトからダウンロードすることができます）。

◆発問（問いかけ）の活用場面の設定

思考力・判断力を高めるためには、授業の中で思考を促し、判断させる場面を設定する必要があります。思考を促す手立てとして、教師の発問は重要です。<sup>7)</sup>

授業のどの場面で何を考えさせるための発問をするのか、指導案作成の段階で想定しておくといよいでしょう。

	分類 <sup>8)</sup>	問いかけの例 <sup>8)</sup>
1	導入的な発問や知識の定着を確認する発問	<ul style="list-style-type: none"> <li>• ○○って聞いたことがありますか？</li> <li>• 先週学習したキーワードはなんでしたか？</li> </ul>
2	発想を広げる発問	<ul style="list-style-type: none"> <li>• ○○のキーワードから連想されることを出来る限り多く挙げてみよう。</li> </ul>
3	結論を絞り込む発問	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 出た意見を類似したもの同士でまとめて、いくつかに分類してみよう。</li> </ul>
4	一度まとまりかけた結論を別の角度から批判的に検証する発問	<ul style="list-style-type: none"> <li>• グループの意見で見逃していることはないだろうか。</li> </ul>
5	新たなアイデアや課題の限界などについて評価し、合意を導く発問	<ul style="list-style-type: none"> <li>• (グループの結論) にどのような点で合意しましたか？</li> </ul>

指示、説明	学習活動を伝える
発問	認識的活動を促す
演示	好ましい技能の在り方を指し示す
賞賛、助言、励まし	児童のパフォーマンスを高める

<sup>5)</sup>

◆評価機会の設定

評価には様々な方法があり、観察評価や学習ノートの記述、発言などの見取りから行います。どの場面でどのような評価方法で児童を見取るのかを明記します。見取るときは、各観点についてどう見取るのか、見取りやすい方法を考えることが大切です。

◆学習内容・活動

は、学習する順序や、本時でかけることができる時間を考慮し、無理のない計画を作成しましょう。



Q12 効果的な発問はどんなものがありますか  
→ P. 38

◆発問のほかにも、教師が児童に直接働きかけていく行為（教授行為）があります。違いを認識して授業で活用しましょう。<sup>5)</sup>

自身の授業を振り返り、授業改善に役立てましょう。  
→ P. 53



## 体育科学習指導案

指導者 保健 一郎

1 日時・場所 令和2年7月5日（木）5校時 教室

2 学年・組 4年2組 31名

3 単元名 「体の発育・発達」

4 単元について

手順2

単元の指導内容や教材の特性 等

(1) 単元観

本単元では、これから大人の体へと変化していく児童に、体の発育・発達のメカニズム、体をよりよく発育・発達させるために必要な生活の仕方を理解させるとともに、体と心の深いかかわりに気付かせ、思春期の体と心の変化について理解を深めることをねらいとしている。さらに、体がよりよく発育・発達するために、自分の生活を振り返り、課題を見付け、その解決に向けて考え、それを表現できるようにすることも必要である。

(2) 児童観

当該の領域等における児童の実態 等

児童は、年に数回実施する身体測定の際に、身長伸びに喜んだり、体重の増加を気にしたりして、自分の体の発育に対する関心が高い。また、この年齢の児童は、男女それぞれの体や心に変化が生じる思春期の入口であり、少しずつ異性への関心が芽生え始めるとともに、発育・発達の個人差が目立ち始める時期でもある。体つきに変化が現れていない児童は実感がなく、変化し始めている時期の児童は恥ずかしいと思いがちであるため、自分の体の変化や個人による発育の違いなどについては、自分のこととして実感させるとともに肯定的に受け止めさせることが大切である。

(3) 指導観

(1)(2)を踏まえた具体的な指導の方法・方向性 等

体の変化や個人による発育・発達の違いについては、複数の身長データを比較することによって年齢に伴う変化や個人差について理解できるようになると考える。また、自分のこれまでの成長と比較し、自分と他の人では、体の発育・発達などに違いがあることに気付かせ、そのことを肯定的に受け止められることが大切であることについても触れるようにする。

初経や精通など二次性徴による体の変化については、初めて耳にする言葉や現象である児童がほとんどであり、知ることで不安や恥ずかしさを感じたり、大人になることに対して嫌悪感などの否定的な感情を抱いたりする児童もいると考えられる。ここでは、思春期の体の変化について心配している同年代の児童にアドバイスをする活動に取り組むことで、大人の体に近づく具体的な現象として誰にでも起こることであると捉えることができるとともに、思春期の体つきの変化や初経・精通についての不安を和らげ、肯定的な感情を抱くことに繋がると考える。

〈内容のまとめ〉 第4学年 体の発育・発達 <単元名> 体の発育・発達

《保健領域の覚えておきたい基本事項》

◆小学校保健の「内容のまとめ」は全部で5つあります。

●3年 健康な生活(4)	●4年 体の発育・発達(4)	●5年 心の健康(4) けがの防止(4)	●6年 病気の予防(8)
-----------------	-------------------	----------------------------	-----------------

学年の指定は、要領「内容の取扱い」に記載があります

◆保健領域は各学年の配当時間数が少ないため、「内容のまとめ」＝「単元」と考えることもできます。

手順1 要領の記載内容を把握する

学習する内容が、要領にどのように記載されているかを把握します。「体の発育・発達」の単元の目標設定(手順5)や評価規準の設定(手順6)に活用します。

要領

第2章各教科 第9節体育 (P.144) 第3学年及び第4学年 2内容 G保健

(2) 体の発育・発達について、課題を見付け、その解決を目指した活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。

ア 体の発育・発達について理解すること。

(ア) 体は、年齢に伴って変化すること。また、体の発育・発達には、個人差があること。

(イ) 体は、思春期になると次第に大人の体に近づき、体つきが変わったり、初経、精通などが起こったりすること。また、異性への関心が芽生えること。

(ウ) 体をよりよく発育・発達させるには、適切な運動、食事、休養及び睡眠が必要であること。

イ 体がよりよく発育・発達するために、課題を見付け、その解決に向けて考え、それを表現すること。

保健領域には、運動領域のような「学びに向かう力、人間性等」の内容の記載はありません。

手順2 単元について整理する

◆単元観

◆児童観

◆指導観

単元について整理する→ P. 10



### 手順3

#### 5 単元の目標（学習のねらい）

- (1) 年齢に伴う体の変化と個人差、思春期の体の変化、体をよりよく発育・発達させるための生活について理解することができるようになる。〔知識及び技能〕
- (2) 体の発育・発達について、課題を見付け、その解決に向けて考え、それを表現することができるようになる。〔思考力、判断力、表現力等〕
- (3) 体の発育・発達について、健康の大切さに気づき、自己の健康の保持増進に進んで取り組むことができるようになる。〔学びに向かう力、人間性等〕

語尾は「～ができるようになる」と表記

### 手順3 単元の目標を設定する

3つの資質・能力（知識及び技能・思考力、判断力、表現力等・学びに向かう力人間性等）それぞれについて「単元の目標」を設定します。

要領を参考に設定することができます。

要領→ P. 18

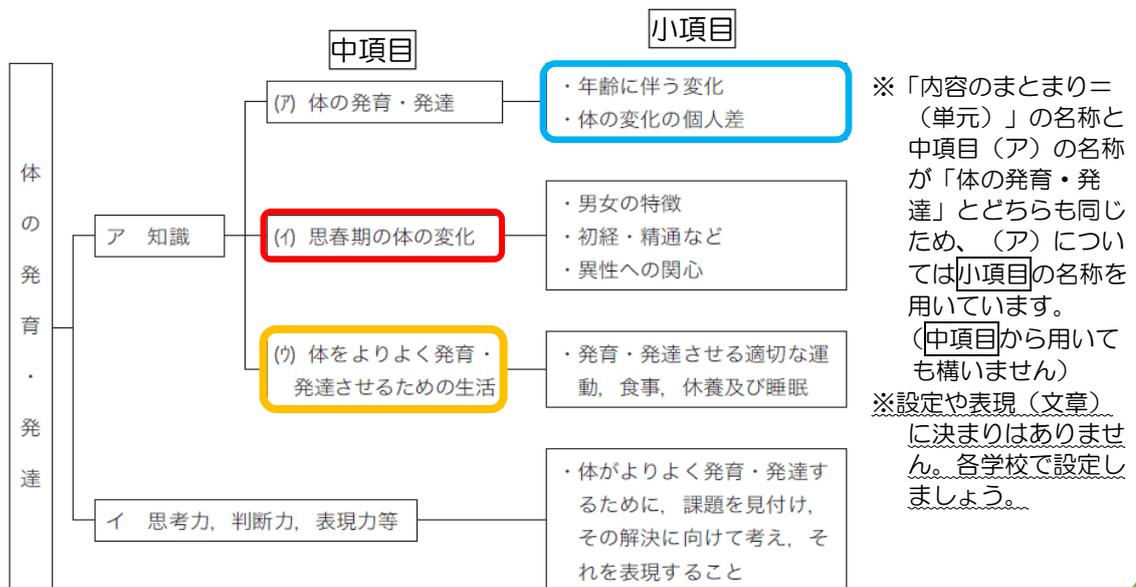
#### 「知識」の指導内容を整理する

ア 体の発育・発達について理解すること。

- (ア) 体は、年齢に伴って変化すること。また、体の発育・発達には、個人差があること。
- (イ) 体は、思春期になると次第に大人の体に近づき、体つきが変わったり、初経、精通などが起こったりすること。また、異性への関心が芽生えること。
- (ウ) 体をよりよく発育・発達させるには、適切な運動、食事、休養及び睡眠が必要であること。

- (1) 年齢に伴う体の変化と個人差、思春期の体の変化、体をよりよく発育・発達させるための生活について理解することができるようになる。

指導内容を整理すると解説の「中項目」の名称として考えることができます。



## 「思考力、判断力、表現力等」の内容を整理する

イ 体がよりよく発育・発達するために、課題を見付け、その解決に向けて考え、それを表現すること。



(2) 体の発育・発達について、課題を見付け、その解決に向けて考え、それを表現することができるようになる。〔思考力、判断力、表現力等〕

「学びに向かう力、人間性等」については、**要領及び解説**に指導内容の記載がありません。文部科学省国立教育政策研究所発行の資料（「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料）から「評価の観点及びその趣旨」を引用して、次のように設定することができます。

「Ⅱ 第3学年及び第4学年 1 第3学年及び第4学年の目標と評価の観点及びその趣旨（評価の観点及びその趣旨のみ抜粋）」<sup>4)</sup>

主体的に学習に取り組む態度

各種の運動の楽しさや喜びに触れることができるよう、各種の運動に進んで取り組もうとしている。また、**健康の大切さに気付き、自己の健康の保持増進についての学習に進んで取り組もうとしている。**



(3) 体の発育・発達について、健康の大切さに気付き、自己の健康の保持増進に進んで取り組むことができるようになる。

**〔学びに向かう力、人間性等〕**

文末は「各教科等・各学年等の評価の観点及びその趣旨」を参考

◆単元の目標の語尾は、「～ができるようになる」と表記します。

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<p>① 身長や体重など年齢に伴う体の変化と個人差について、理解したことを<u>言ったり書いたり</u>している。(知)</p> <p>② 思春期には、体つきに変化が起こり、人によって違いがあるものの男女の特徴が現れることについて、理解したことを<u>言ったり書いたり</u>している。(知)</p> <p>③ 思春期には、初経、精通、変声、発毛が起こり、異性への関心も芽生えること、これらは個人差があるものの、大人の体に近づく現象であることについて、理解したことを<u>言ったり書いたり</u>している。(知)</p> <p>④ 体をよりよく発育・発達させるための生活の仕方には、体の発育・発達によい運動、バランスのとれた食事、適切な休養及び睡眠などが必要であることについて、理解したことを<u>言ったり書いたり</u>している。(知)</p>	<p>① 体の発育・発達について、身長や体重などの年齢に伴う体の変化や思春期の体の変化、体の発育・発達に関わる生活の仕方から<u>課題を見付けている</u>。(思・判)</p> <p>② 体の発育・発達について、自己の生活と比べたり、関連付けたりするなどして、体をよりよく発育・発達させるための方法を考えているとともに、考えたことを学習カードなどに<u>書いたり、発表したりして友達に伝えている</u>。(表)</p>	<p>① 体の発育・発達について、課題の解決に向けての<u>話合いや発表などの学習や教科書や資料などを調べたり、自分の生活を振り返ったりするなどの学習に進んで取り組もうと</u>している。</p>

知識・技能の評価の方法について  
→ P. 24

★主体的に学習に取り組む態度の評価規準は、  
単元名+実際の活動+語尾（～進んで取り組もうと  
している） で記載ができます。

<p>単元名 「体の発育・ 発達」</p>	<p>実際の活動 話合いや発表 資料を調べる 生活振り返り</p>	<p>語尾 進んで 取り組もう とする</p>
-------------------------------	---	-------------------------------------

#### 手順4 単元の評価規準を作成する

ここでは、児童の活動を考慮し、児童の学びの姿としてより具体化した単元の評価規準を作成します。

◆知識 ⇒ 観点：「知識・技能」※4

「知識」の指導内容（ア）～（ウ）【（イ）は2つ】の「～を理解できるようにする」と示されている内容を整理します（ は解説のP. 109より抜粋）。

##### ア 知識

（ア）体の発育・発達

体の発育・発達については、身長、体重などを適宜取上げ、これらは年齢に伴って変化することを理解できるようにするとともに、個人差があることを理解できるようにする。

（イ）思春期の体の変化

② 思春期には、体つきに変化が起こり、人によって違いがあるものの、男子はがっしりした体つきに、女子は丸みのある体つきになるなど、男女の特徴が現れることを理解できるようにする。

① 思春期には、初経、精通、変声、発毛が起こり、また、異性への関心も芽生えることについて理解できるようにする。さらに、これらは、個人差があるものの、大人の体に近づく現象であることを理解できるようにする。

（ウ）体をよりよく発育・発達させるための生活

体をよりよく発育・発達させるための生活の仕方には、体の発育・発達によい運動、多くの種類の食品をとることができるようなバランスのとれた食事、適切な栄養及び睡眠などが必要であることを理解できるようにする。

文末を「言ったり書いたりしている」と変えて「知識・技能」の評価規準を設定します（P. 21 単元の評価規準「知識・技能」参照）。

◆思考力、判断力、表現力等 ⇒ 観点：「思考・判断・表現」

「思考力、判断力、表現力等」は例示が示されています。

##### イ 思考力、判断力、表現力等

体の発育・発達に関わる事象から課題を見付け、体のよりよい発育・発達を目指す視点から、適切な方法を考え、それを伝えることができるようにする。

【例示】

- ・ 身長や体重などの年齢に伴う体の変化や体の発育・発達に関わる生活の仕方から課題を見付けること。
- ・ 思春期の体の変化について、学習したことを、自己の成長と結び付けて考えること。
- ・ 体をよりよく発育・発達させるための生活について、学習したことを自己の生活と比べたり、関連付けたりするなどして適切な解決方法を考えること。
- ・ 体の発育・発達について、自己の成長や体をよりよく発育・発達させるために考えたことを学習カードなどに書いたり、発表したりして伝え合うこと。

例示（・～）の文末を「～している」と変えて「思考・判断・表現」の評価規準を設定します（P. 21 単元の評価規準「思考・判断・表現」参照）。

◎「～考えている」「～課題を見付けている」等は「思考・判断」に係る内容。

◎「～他者に伝えている」「～発表したりしている」等は「表現」に係る内容。

◆学びに向かう力、人間性等 ⇒ 観点：「主体的に学習に取り組む態度」

解説に「内容」の記載がありませんので（運動領域はあります）、ここでは、話し合いや調べ学習、振り返りなど学習に取り組もうとしている姿を記載します（P. 21 単元の評価規準「主体的に学習に取り組む態度」参照）。

評価規準の設定について

設定の仕方、表現（文章）、評価規準の数に決まりはありません。学校の実態や与えられた単元時間数に見合った評価規準を設定しましょう。

※4 技能を扱わない単元においても、観点名は「知識・技能」となります（「知識」とはならない）。

◆4単位時間に見合った評価規準数として「知識・技能」の評価規準を4つ設定しています。

◎4単位時間に見合った評価規準数として「思考・判断・表現」の評価規準を2つ設定している。

（4つの例示の内容を2つに整理）

◎「主体的に学習に取り組む態度」単元の評価規準作成の手順をP. 21に示しています。

◎7 指導と評価の計画（本時1／4）

手順5

単元のうち、いつ、どの場面で何をどのように見取るかの計画

時間	1	②（本時）	3	4
小項目	体の発育・発達	思春期の体の変化①	思春期の体の変化②	体をよりよく発育・発達させるための生活
0	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「体の変化」からイメージすることを出し合い、体や心の変化に気付く。</li> <li>・教科書や資料から、4人の身長伸びを比べ、気付いたことを発表する。</li> <li>・身長や体重などは年齢に伴って変化すること、体の変化には個人差があることを理解する。</li> <li>・身長伸びについて不安を感じている児童の事例を用い、学習したことを生かしてアドバイスを学習カードに記入する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「シルエットクイズ」に取り組み、男女の体つきの変化に気付く。</li> <li>グループで思春期に起こる体の変化について考え、ベン図（男子・両方・女子）を用いて分類しながら話し合う。</li> <li>・思春期には、体つきに変化が起こること、人によって違いがあるもの男女の体つきの特徴が現れることを理解する。</li> <li>・思春期の体つきの変化について不安を感じている児童の事例を用い、学習したことを生かしてアドバイスを学習カードに記入する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「声当てクイズ」に取り組み、変声に伴う声の変化について気付く。</li> <li>・教師の話から思春期には起こる体の変化について知る。</li> <li>・体の秘密カードをもとに、初経、精通、変声、発毛について調べる。</li> <li>・思春期には、初経、精通、変声、発毛が起こること、異性への関心も芽生えること、これらは、個人差があるものの大人の体に近づく現象であることを理解する。</li> <li>・思春期の体の変化について心配している児童の事例を用い、学習したことを生かしてアドバイスを考え、発表する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・体をよりよく成長させるために必要だと思うことを出し合う。</li> <li>・出た意見をYチャートで3つ（運動、食事、休養、睡眠）に分類する。</li> <li>・どのように生活をすれば、体をよりよく発育・発達できるかをグループで話し合う。</li> <li>・体の発育・発達に良い運動、多くの種類の食品をとることができるようなバランスの取れた食事、適切な休養及び睡眠が必要であることを理解する。</li> <li>・これまでの自分の生活を振り返り、自分の目標を決める。</li> </ul>
45				
知・技	①●観察・学習カード	②●観察・学習カード	③●観察・学習カード	④●観察・学習カード
思・判・表		①●観察・学習カード	②●観察・学習カード	
態度	①			①●観察・学習カード

【指導・評価に関する補足】○指導の中心となる時間●評価の中心となる時間

8 本時について（本時2／4）

(1) 本時の目標

- ・思春期には、体つきに変化が起こり、人によって違いがあるもの男女の特徴が現れることについて、理解したことを言ったり書いたりすることができるようにする。（知識及び技能） 語尾は「～ができるようにする」
- ・体の発育・発達について、身長や体重などの年齢に伴う体の変化や思春期の体の変化、体の発育・発達に関わる生活の仕方から課題を見付けることができるようにする。（思考力、判断力、表現力等）

指導（学習）の計画

指導・評価の計画

## 手順5 指導と評価の計画を作成する

◆ここでは、単元計画のうち、いつ、どの場面で、何をどのように見取るのか計画を作成します。指導の計画のもとに評価の計画を重ね合わせ、指導と評価の計画を作成します。

例：〔2 時間目〕に〔クイズやグループで活動する場面〕で〔思考・判断・表現〕を、〔学習内容をまとめたり、学習したことを生かしてアドバイスしたりする場面〕で〔知識・技能〕を〔観察と学習カード〕で見取ります。

〔学習評価の基本的な考え方〕<sup>4)</sup>

学習評価の機会を設定する際は、必要以上に評価機会を設けず、評価資料の収集・分析に多大な時間を要していないかを注意します。効果的・効率的に進めるために、3観点の評価を重点化し、1 時間の評価の観点を多くとも、2 観点とします。

知識・技能	児童の発言や 1 時間の学習の軌跡として学習カードなどから評価します。これまでの「知識・理解」では、毎時間の評価を行っていたものをねらいに基づいて精選して評価をします。それぞれの時間に抑える知識・技能の内容はありますが、必ずしも評価するものではありません。
思考・判断・表現	評価する際は、学習カードの記載内容のみで評価すると「知識」の評価と混同してしまう懸念がありますので注意が必要です。また、表現を評価する際は、知識として得た内容をどのように思考・判断したのかを話し合いや発表などで友達に伝えている姿を見取っていきます。
主体的に学習に取り組む態度	よりよく学ぼうとする意欲をもって、学習に取り組む態度を評価します。その際、 <u>粘り強い取組を行おうする側面と自らの学習を調整しようとする側面の 2 つを総合的に評価することが求められます。</u> いずれの面も知識・技能を習得させたり、思考力・判断力・表現力等を育成したりする場面に関わって評価をしていきます。また、育成に時間がかかる点に留意し、単元を通して見取っていきます。

### 十分満足できる (A) の評価規準の設定の方法

学習して理解したことに加え、自分の生活との関連を具体とともを示すことができれば「十分満足できる姿」と言ってい良いでしょう。

P.48 参照

### 努力を要する (C) の児童への支援について

おおむね満足できる状況に達していない場合、その状況に達するように、その後の指導や支援を工夫することが大事です。

新たな発問を加える  
具体例で考えさせる  
一例を挙げさせてみる  
友達と意見を交流させてみる

などそれぞれの場面に応じた工夫が求められます。

P.48 参照

### ★知識・技能の評価例

- ①身長や体重など年齢に伴う体の変化と個人差について、理解したことを言ったり書いたりしている状況を（観察・学習カード）で捉えます。
- ②思春期には、体つきに変化が起こり人によって違いがあるものの男女の特徴が現れることについて理解したことを言ったり書いたりしている状況を（観察・学習カード）で捉えます。
- ③思春期には、初経、精通、変声、発毛が起こり、異性への関心も芽生えること、これらは個人差があるものの、大人に近づく現象であることについて、理解したことを言ったり書いたりしている状況を（観察・学習カード）で捉えます。
- ④体をよりよく発育・発達させるための生活の仕方には、体の発育・発達に良い運動、バランスのとれた食事、適切な休養及び睡眠などが必要であることについて、理解したことを言ったり書いたりしている状況を（観察・学習カード）で捉えます。

(2) 本時の展開

手順6

児童の視点で

教師の視点

分	学習内容・活動（・予想される児童の反応）	指導上の留意点（○指導 □支援・配慮 ◆評価規準）
はじめ 5分	<p>●「シルエットクイズ」に取り組み、男女の体つきの変化について気付く。</p> <p>発問：どちらが男子か、女子かわかるかな？</p> <p>・「中学生は、肩幅が大きい方が男の子かな。」</p> <p>・「小学生は背の大きさが似ていて、男の子と女の子の見分けが難しいな。」</p> <p>発問：思春期とは、どういうことが覚えていますか？</p>	<p>○小学4年生男女と中学3年生男女のシルエットを用意し、成長に伴う男女の体つきの変化に気付かせる。</p> <p>○気付いた理由についても触れて聞く。</p> <p>□判断に困っている児童には、自分の身長などの年齢に伴う変化を振り返らせ、変化に気付けるように促す。</p> <p>○前時の身長の伸びの学習を想起させ、「発達が盛んな時期」を思春期であると学習したが、「大人の体に変化していく時期」も「思春期」の特徴であることを伝え、本時のねらいにつなげる。</p>
なか 25分	<p>●本時のめあてを確認する。</p> <p>めあて：大人に近づくにつれて体は、どのように変わっていくのだろう。</p> <p>●グループで思春期に起こる体の変化について考え、ベン図（男子・両方・女子）を用いて分類しながら話し合う。</p> <p>・各グループで分類したベン図を黒板に貼り、全体で共有する。</p> <p>●思春期には、体つきに変化が起こること、人によって違いがあるものの男女の体つきの特徴が現れることを理解する。</p> <p>発問：思春期を迎えた自分の体は、どのように変化していきますか？</p> <p>・学習カードに思春期に起こる体の変化について記入し、発表する。</p>	<p>○本時のめあてを示す。</p> <p>□話し合いが停滞しているグループには、既存の知識やクイズを通して気付いたことをもとに、グループで分類しながら話し合うとよいことを言葉がけする。</p> <p>○全体で確認していく中で、意見が割れたところはなぜそう思ったのかを聞きながら正しい知識を共有する。</p> <p>○これからの自分の体の変化を想像させ、自分の言葉でまとめるように促す。</p> <p>○思春期の体つきの変化が起こる時期は、前時の身長の時と同じように一般的に男女差があり、人それぞれ違うことなどを押さえる。</p> <p>□学習内容の理解が不十分な児童には、クイズの内容やベン図での分類内容を個別に振り返らせたり、教科書等で具体的に説明をしたりする。</p> <p>◆思春期には、体つきに変化が起こり、人によって違いがあるものの男女の特徴が現れることについて、理解したことを言ったり書いたりしている（観察・学習カード）。</p>
まとめ 15分	<p>●思春期の体つきの変化について不安を感じている児童の事例を用い、学習したことを生かしてアドバイスを学習カードに記入する。</p>	<p>□本時の学習をいかしたり、自分の発育・発達と結び付けたりしてアドバイスを記入するよう助言する。</p> <p>◆体の発育・発達について、身長や体重などの年齢に伴う体の変化や思春期の体の変化、体の発育・発達に関わる生活の仕方から課題を見付けている。（観察・学習カード）。</p>

## 手順6 本時の展開を構想する

- (1) 具体的な学習内容と学習活動の設定
- (2) 発問の活用場面の設定
- (3) 評価機会の設定

本時の展開の書き方→ P. 16

### ★指導方法の具体例

指導方法を選ぶ際には、その時間の目標を達成するために最も効果的な指導方法であるかを吟味するとともに、選んだ指導方法の効果を発揮させるために必要な時間配分が可能かをえます。

★保健教育は、健康という教科横断的なテーマで、学校教育活動全体を通して行われますが、その中核となるのは体育科であり、運動領域と保健領域の関連を図ることが大切であるとされています。

表 指導方法（例）<sup>16)</sup>

指導方法	具体的な活動	期待される資質・能力等の育成	活用例
ブレインストーミング	様々なアイデアや意見を出していく	思考力、判断力、表現力の育成 知識の習得	健康な生活や病気の予防の要因 不安や悩みへの対処方法
事例などを用いた活動	日常生活で起こりやすい場面を設定し、そのときの心理状態や対処の仕方等を考える	思考力、判断力、表現力の育成 知識の習得	交通事故や身の回りの危険 緊張したときの体の変化
実験	仮説を設定し、これを検証したり、解決したりする	思考力、判断力、表現力の育成 学びに向かう力、人間性等の育成	ブラックライトによる手洗いチェック 血液モデルの流動実験
実習	実物等を用いて体を動かす	思考力、判断力、表現力の育成 知識の習得	けがの手当て 不安や悩みへの対処
ロールプレイング	対処の仕方等を疑似体験する	思考力、判断力、表現力の育成	けがをした時の大人への知らせ方 喫煙、飲酒の防止
フィールドワーク	実情を見に行ったり、人々に質問したりする	思考力、判断力、表現力の育成 学びに向かう力、人間性等の育成	保健室の役割 地域の保健機関の調査
インターネット	コンピュータを利用して、情報を収集する	知識の習得 情報処理能力の育成	たばこの害 体の仕組み

例

(低学年)

体ほぐしの運動遊び

(高学年)

心の健康など

→P. 32

## 第2章 すぐに知りたいQ&A（用語を知ろう）

### Q1 学習指導案作りって、何を参考にしたらいいですか？

A 授業を作るにあたって根拠となるものは、平成29年に告示された小学校学習指導要領があります。法令に基づいて国が定めた教育課程の基準なので、教育課程の編成及び実施に当たってはこれに従わなければなりません。学習指導要領には学年ごとの目標・内容や、全体にかかわる指導計画の作成と内容の取扱いが示されています。また、学習指導要領の内容の解説である小学校学習指導要領解説には例示などの詳しい説明がされており、学習指導要領と一体として理解しておく必要があります。<sup>3)</sup>

学習指導要領には法的拘束力があり、これらをもとに、授業を作っていくことが前提とされていますので、しっかり読んでねらいをもって授業づくりをすることが求められます。内容のまとめりごとに「知識及び技能」、「思考力、判断力、表現力等」、「学びに向かう力、人間性等」（保健領域はなし）に分けて内容の記載があります。

#### 【新設】

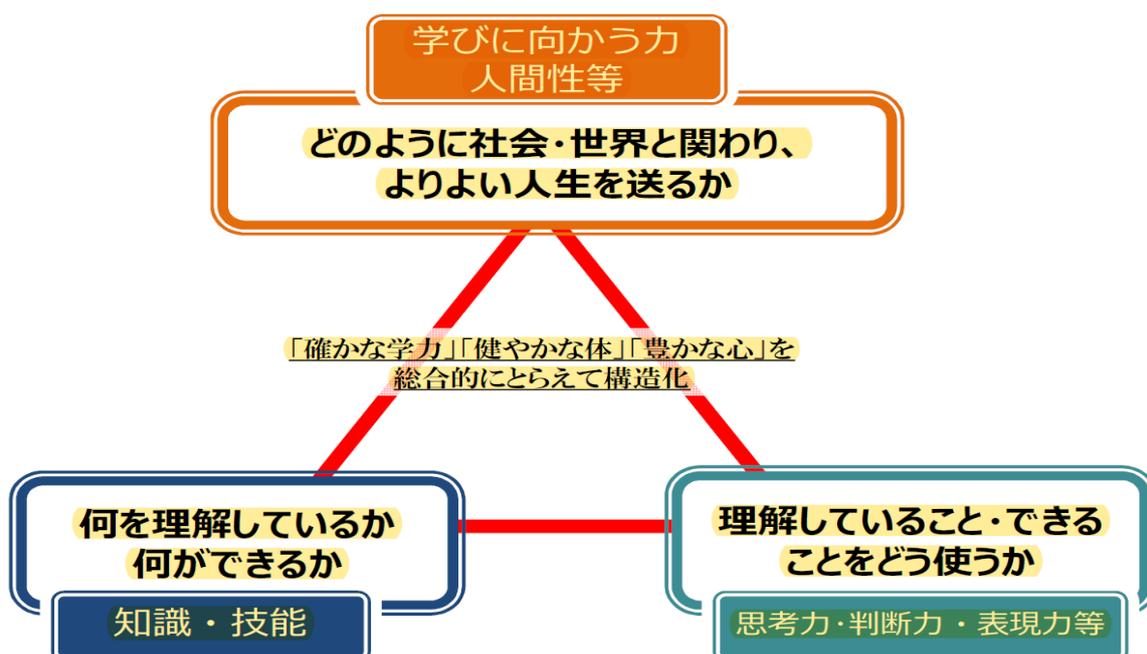
<知識及び技能>  
運動が苦手な児童への配慮の例  
<学びに向かう力、人間性等>  
運動に意欲的でない児童への配慮の例

Q9参照

### Q2 育成を目指す3つの資質・能力とは何ですか？<sup>9) 10)</sup>

A これまでの「生きる力」をより具体化し、教育課程全体を通して育成を目指す資質・能力が以下の3つに整理されました。

生きて働く「知識及び技能」の習得	何を理解しているか、何ができるか
未知の状況にも対応できる「思考力、判断力、表現力等」の育成	理解していること、できることをどう使うか
学びを人生や社会に生かそうとする「学びに向かう力、人間性等」の涵養	どのように社会・世界と関わり、よりよい人生を送るか



## 解説（小学校学習指導要領（平成 29 年告示）解説体育編）運動領域の「技能」の読み方

解説の運動領域には内容のまとめりごとに「知識及び技能（運動）」、「思考力、判断力、表現力等」、「学びに向かう力、人間性等」の見出しの後に  に囲まれて要領の内容が示されています。「知識及び技能」では、続いて内容の解説、技や動きの例示が示されています。

例：第 3 学年及び第 4 学年の器械運動の記載

### B 器械運動

～略～

要領の内容

#### (1) 知識及び技能

- (1) 次の運動の楽しさや喜びに触れ、その行い方を知るとともに、その技を身に付けること。
- ア マット運動では、回転系や巧技系の基本的な技をすること。
  - イ 鉄棒運動では、支持系の基本的な技をすること。
  - ウ 跳び箱運動では、切り返し系や回転系の基本的な技をすること。

**基本的な技**とは、類似する技のグループの中で、最も初歩的で易しい技でありながら、グループの技に共通する技術的な課題をもっていて、当該学年で身に付けておきたい技のことである。

#### ア マット運動

内容の解説

マット運動では、その行い方を知るとともに、自己の能力に適した回転系（前転など）や巧技系（壁倒立など）の基本的な技をすること。また、基本的な技に十分に取り組んだ上で、それらの発展技に取り組んだり、技を繰り返したり組み合わせたりすること。

[ 背中をマットに接して回転する（接転技群）回転系の基本的な前転グループ技の例示]

##### ○ 前転（発展技：開脚前転）

- ・ しゃがんだ姿勢から手で支えながら腰を上げ、体を丸めながら後頭部－背中－尻－足裏の順にマットに接して前方に回転して立ち上がることを示す。

技の例示

～略～

[ 背中をマットに接して回転する（接転技群）回転系の基本的な後転グループ技の例示]

##### ○ 後転

- ・ しゃがんだ姿勢から体を丸めながら尻－背中－後頭部－足裏の順にマットに接して腰を上げながら後方に回転し、両手で押して立ち上がることを示す。

～略～

このように、器械運動では例示で技がたくさん示されていますが、すべての技を必ず全員が取り組む必要はありません。例えば上記の第 3 学年及び第 4 学年のマット運動では「回転系や巧技系の基本的な技」が最低限教えるべき教育内容として要領に定められており、個や状況に応じて、技を選択できるわけです。<sup>3)</sup>

Q3 体育科における**知識及び技能、思考力、判断力、表現力等、  
学びに向かう力、人間性等**を指導する際のポイントは何ですか？

A Q2にあるように、すべての教科の目標及び内容が「知識及び技能」、「思考力、判断力、表現力等」、「学びに向かう力、人間性等」の育成を目指す資質・能力の3つの柱で再整理されました。児童の発達の段階や特性を踏まえ、資質・能力の3つの柱の育成がバランスよく実現できるよう留意する必要があります。<sup>4)</sup>

それぞれの指導のポイントを押さえましょう

◇知識及び技能<sup>11)</sup>

運動領域	運動の行い方に関する「知識」と従前から指導してきた「技能」をより関連付けて指導することが重要です。各種の運動の行い方を知るとともに、動きや技能を身に付けることが学習のねらいとなります。指導においては、ただ単に運動を繰り返し行い、動きや技能を身に付けるのではなく、その運動の行い方を知ることと運動ができるようにすることの両方をバランスよく学習することが重要です。
保健領域	「心の健康」「けがの防止」に「技能」の内容が示されたことを踏まえ、実習等を取り入れて技能の習得を目指す指導を工夫することが大切です。

◇思考力、判断力、表現力等<sup>11)</sup>

運動領域	従前の思考・判断の内容に加え、「思考し判断したことを他者に伝える」ことを一層重視することとされました。特に対話的な学びの充実には欠かせないことであるものと考えられます。指導においては、自己の能力に適した課題を見付けること及び課題解決のための活動を選ぶことができるようにするばかりでなく、それらを他者に伝える力を育成することが求められます。
保健領域	単元全体を通して内容についての課題を見付け、その解決方法を考え判断し、それらを表現することができるようにすることが求められます。

◇学びに向かう力、人間性等<sup>11)</sup>

運動領域	目標及び内容の具体が示されました。これは、教科の特性として、主体的に学習に取り組む態度だけでなく、約束を守り友達と助け合うこと、分担された役割を果たすこと、友達の考えや取組を認めること、運動する際の安全に気を配ること等の態度の育成を重視しているためです。指導においては、ただ「大切だからする」「きまりだから守る」など、受動的な学びではなく、「約束を守って楽しく運動する」「安全に運動するから楽しめる」など、楽しさや喜びにつなげるようにすることが重要です
保健領域	健康に関心をもてるようにするために、身近な日常生活の体験や事例などを題材にした話合い、思考が深まる発問の工夫や思考を促す資料の提示、課題の解決的な活動や発表、ブレインストーミング、応急手当などの実習、実験などを取り入れることなどの指導の工夫を行うことが重要です。

#### Q4 体育科における**主体的・対話的で深い学び**とは何ですか？

A 解説には主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善の視点として□内のように説明されています。

運動の楽しさや健康の意義等に気づき、運動や健康についての興味や関心を高め、課題の解決に向けて自ら粘り強く取り組み、考察するとともに学習を振り返り、課題を修正したり新たな課題を設定したりするなどの主体的な学びを促すこと。

例えば、跳び箱運動の授業で、体の投げ出しがうまくいかない子どもが、うさぎ跳びなど自分にあった下位教材や場を選んで取り組む様子、ボール運動で、自分たちのチームの作戦がうまくいったかどうかを、ゲーム記録を用いて振り返り、次の課題を明確にする場面など、子どもたちの能動的な学びの姿をイメージすることができます。<sup>5)</sup>

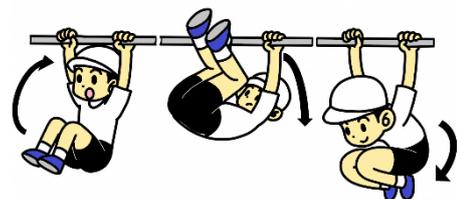
運動や健康についての課題の解決に向けて、児童が他者（書物等を含む）との対話を通して、自己の思考を広げたり深めたりするなどの対話的な学びを促すこと。

例えば、ボールゲームの授業で、自分たちがよりゲームを楽しむために、どのようにはじめのルールを修正するかを話し合う場面や、浮いて進む運動の授業でICT 機器を活用してお互いの動きを確認しながら次の課題を確かめアドバイスし合う場面、鉄棒運動の授業で取り組む技のポイントや練習方法を、資料を見ながら確認の様子などをイメージすることができます。<sup>5)</sup>

学びの過程を通して、自己の運動や健康についての課題を見付け、解決に向けて試行錯誤を重ねながら、思考を深め、よりよく解決するなどの深い学びを促すこと。

例えば、走の運動遊びの授業で、いろいろな場で様々な跳び方を考えようとする姿や、ネット型の授業で、今まで習得した戦術を基にして、自分たちのチームのよさを生かすことのできる作戦を考え出したり、新たなルールを話し合おうとしたりする姿、体の動きを高める運動の授業で、今の自分の動きの様子や体力レベルに照らして、これからどのような運動をしていくことが必要なのかを考え、調べたり、日常的にどのような運動をすればよいのかを話し合ったりする姿など、子どもたちが発展的に考え、学びを広げられるような姿がイメージされます。<sup>5)</sup>

また、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善の推進については、指導方法を工夫して必要な知識及び技能の習得を図りながら、子どもたちの思考を深めるために発言を促したり、気付いていない視点を提示したりするなど、学びに必要な指導の在り方を追究し、必要な学習環境を積極的に設定していくことが大切です。<sup>2)</sup>



## Q5 見方・考え方とは何ですか？

A 要領「総則」では、「各教科等の特質に応じた物事を捉える視点や考え方（以下「**見方・考え方**」という。）が鍛えられていくことに留意し、児童が各教科等の特質に応じた**見方・考え方**を働かせながら、知識を相互に関連付けてより深く理解したり、情報を精査して考えを形成したり、問題を見出して解決策を考えたり、思いや考えを基に創造したりすることに向かう過程を重視した学習の充実を図ること」とされています。<sup>1)</sup>

さらに、要領「体育の目標」で次のような記載があります。

体育や保健の見方・考え方を働かせ、課題を見付け、その解決に向けた学習過程を通して、心と体を一体として捉え、生涯にわたって心身の健康を保持増進し豊かなスポーツライフを実現するための資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

<体育（運動領域）の見方・考え方とは>

**解説**には「運動やスポーツを、その価値や特性に着目して、楽しさや喜びとともに体力の向上に果たす役割の視点から捉え、自己の適性等に応じた『**する・みる・支える・知る**』の多様な関わり方と関連付けること」とあります。<sup>2)</sup>

要点を整理すると「運動やスポーツは特性に応じた楽しさや喜びがあることと体力の向上につながっていることに着目するとともに「**すること**」だけでなく、「**みること**」「**支えること**」「**知ること**」など、自己の適性等に応じて、運動やスポーツとの多様な関わり方について考えることを意図している」と**解説**に示されています。<sup>3)</sup>

<保健の見方・考え方とは>

**解説**には、「疾病や傷害を防止するとともに、生活の質や生きがいを重視した健康に関する観点を踏まえ、『個人及び社会生活における課題や情報を、健康や安全に関する原則や概念に着目して捉え、疾病等のリスクの軽減や生活の質の向上、健康を支える環境づくりと関連付けること』であると考えられる。」とあります。小学校においては、特に身近な生活における課題や情報を、保健領域で学習する病気の予防やけがの手当の原則及び、健康で安全な生活についての概念等に着目して捉え、病気にかかったり、けがをしたりするリスクの軽減や心身の健康の保持増進と関連付けることを意図しています。

「見方・考え方」を働かせる学習過程を工夫することにより、体育科で育成を目指す資質・能力がより豊かになり、体育科の目標である「生涯にわたって心身の健康を保持増進し豊かなスポーツライフを実現するための資質・能力」の育成につなげることを目指すものです。<sup>2)</sup>

主として、\_\_\_\_\_の部分が、どのような視点で物事を捉え（これが見方）、  
\_\_\_\_\_の部分が、どのような考え方で思考していくのか（これが考え方）にあたり  
と考えられます。

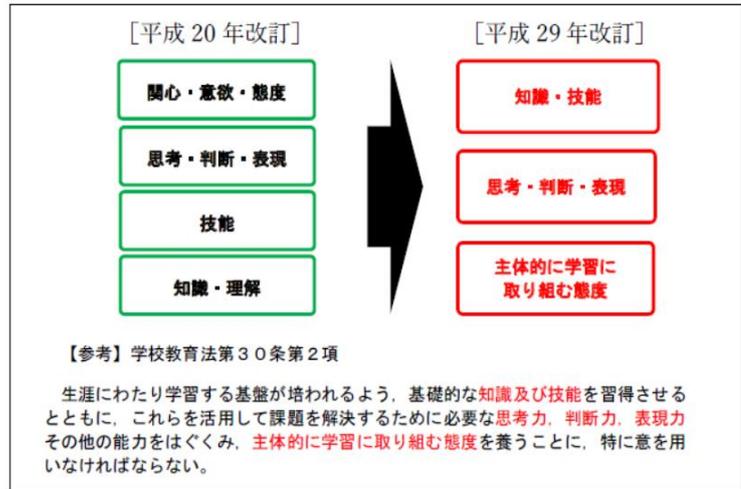
Q6 運動領域、保健領域の指導内容の主な変更点は何ですか？<sup>2)</sup> <sup>3)</sup>

<p>体づくり運動系</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 低学年の領域名が、「<b>体づくりの運動遊び</b>」になりました。</li> <li>• 高学年の内容で「体力を高める運動」は、「<b>体の動きを高める運動</b>」になりました。</li> <li>• 体ほぐしの運動（遊び）は、「自己の心と体との関係に気付くこと」と「仲間と交流すること」でねらいが整理されました。（従前の「体の調子を整えること」については、表に出なくなりましたが、楽しい活動に取り組む中で調整もされていくという考えになりました。</li> </ul>
<p>器械運動系</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 技の例示が、マット運動は「回転技と倒立技」から「<b>回転系と巧技系</b>」、鉄棒運動は「上がり技、支持回転技、下り技」から「<b>支持系</b>」、跳び箱運動は「<b>切り返し系と回転系</b>」で技が整理されました。</li> <li>※各学年の例示の技が、大きく変更されているので注意が必要です。</li> </ul>
<p>陸上運動系</p>	<p>児童の投能力の低下傾向が引き続き深刻な現状にあるため、力強く遠くへ投げることを目的として、「内容の取扱い」に児童の実態に応じて「<b>投の運動(遊び)</b>」を加えて指導することができるとされました。</p>
<p>水泳運動系</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 中学年と高学年の領域名称が<b>水泳運動</b>となりました。</li> <li>• 低学年の内容が「水に慣れる遊び」「浮く・もぐる運動遊び」から「<b>水の中を移動する運動遊び</b>」「<b>もぐる・浮く運動遊び</b>」に変わりました。</li> <li>• 中学年の内容が「浮く運動」「泳ぐ運動」から「<b>浮いて進む運動</b>」「<b>もぐる・浮く運動</b>」に変わりました。</li> <li>• 高学年の内容に「<b>安全確保につながる運動</b>」が新たに加わりました。</li> </ul> 
<p>ボール運動系</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 中学年のゴール型ゲームについては、<b>味方チームと相手チームが入り交じって得点を取り合うゲーム(ゴール型)及び陣地を取り合うゲーム(ゴール型)を取り扱うものとする</b>ことが示されました。</li> <li>• 中高学年の例示では、<b>バドミントンやテニスを基にした易しい(簡易化された)ゲーム、子どもの遊びを基にした易しいゲーム</b>が追加されました。</li> </ul>
<p>表現運動系</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 領域や内容に関する大きな変更点はありません。</li> <li>• 表現運動の楽しさについて、中高学年では「自己の心身を解き放して、イメージやリズムの世界に没入してなりきって踊ることが楽しい運動」と示されました。</li> </ul>
<p>保健</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 高学年の「<b>心の健康</b>」と「<b>けがの防止</b>」に「<b>技能</b>」の内容が示されました。</li> <li>• 「心の健康」については、不安や悩みの対処として、体ほぐしの運動や深呼吸を取り入れた呼吸法などを行うことができるようにすると示されました。</li> <li>• 「けがの防止」については、実習を通して、自らできる簡単な手当てができるようにすると示されました。</li> </ul>

## Q7 新しい学習評価の考え方は？

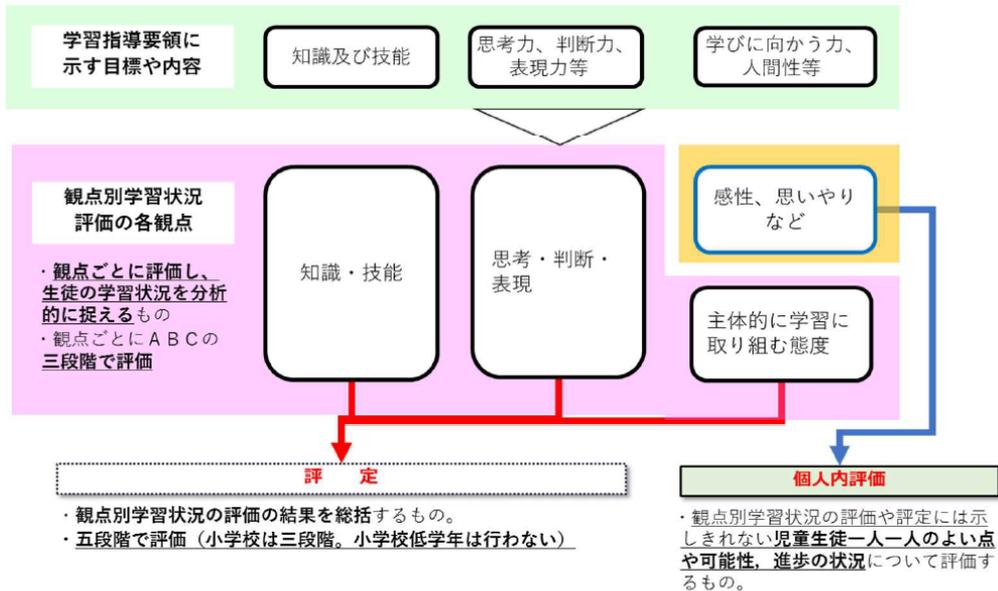
A **要領**の各教科等における目標や内容については、資質・能力の3つの柱に基づいて整理されました。観点別学習状況の評価については、こうした教育目標や内容の再整理を踏まえて、4観点から3観点到整理されました。

学習評価は、学校における教育活動に関し、児童の学習状況を評価するものです。現在、各教科の評価については、学習状況を分析的に捉える「観点別学習状況の評価」と、これらを総括的に捉える「評定」の両方について、学習指導要領に定める目標に準拠した評価として実施するものとされており、観点別学習状況の評価や評定には示しきれない児童一人一人のよい点や可能性、進捗の状況については、「個人内評価」として実施することとされています。<sup>4)</sup>



### 各教科における評価の基本構造 <sup>12)</sup>

- 各教科における評価は、学習指導要領に示す各教科の目標や内容に照らして学習状況を評価するもの（目標準拠評価）
- したがって、目標準拠評価は、集団内での相対的な位置付けを評価するいわゆる相対評価とは異なる。



※この図は、現行の取扱いに「答申」の指摘や新しい学習指導要領の趣旨を踏まえて作成したものである。

### 改訂のポイント 《学習評価の在り方》<sup>13)</sup>

- 児童の学習改善につながるものにしていくこと
- 教師の指導改善につながるものにしていくこと
- これまで慣行として行われてきたことでも、必要性・妥当性が認められていないものは見直していくこと

## Q8 評価の仕方や考え方はどのようになりますか？

A 前ページの「各教科における評価の基本構造」を踏まえた3観点の評価それぞれの考え方は、次表の通りとなります。<sup>4)</sup>

知識・技能	各教科等における学習の過程を通じた知識及び技能の習得状況について評価をします。また、既存の知識及び技能と関連付けたり活用したりする中で、他の学習や生活の場面でも活用できる程度に概念等を理解したり、技能を習得したりしているかについても評価します。
思考・判断 ・表現	各教科等の知識及び技能を活用して課題を解決する等のために必要な思考力・判断力、表現力等を身に付けているかを評価します。
主体的に 学習に取り 組む態度	<p>「学びに向かう力、人間性等」には①「主体的に学習に取り組む態度」として観点別学習状況の評価を通じて見取ることができる部分と、②観点別学習状況の評価や評定にはなじまず、こうした評価では示しきれないことから個人内評価（個人のよい点や可能性、進歩の状況）を通じて見取る部分があることに留意する必要があります。すなわち、②については観点別学習評価の対象外とする必要があります。</p> <p>「主体的に学習に取り組む態度」については、単に継続的な行動や積極的な発言を行うなど、性格や行動面の傾向を評価するというのではなく、各教科等の「主体的に学習に取り組む態度」に係る観点の趣旨に照らして、知識及び技能を習得したり、思考力、判断力、表現力を身に付けたりするために、自らの学習状況を把握し、学習の進め方について試行錯誤するなど自らの学習を調整しながら、学ぼうとしているかどうかという意志的な側面を評価します。</p>

運動領域の「学びに向かう力、人間性等」について、**解説**には発達段階に応じて「公正」、「協力」、「責任」、「参画」、「共生」、「健康・安全」の具体的な指導内容が示されています。<sup>2)</sup>

例：第3・4学年「走・跳の運動」

- ア かけっこ・リレーや小型ハードル走、幅跳びや高跳びに進んで取り組むこと。（愛好的態度）
- イ かけっこやリレーなどのきまりを守り、誰とでも仲よく励まし合うこと。「公正」「協力」
- ウ 走・跳の運動で使用する用具の準備や片付けを友達と一緒にすること。「責任」「参画」
- エ かけっこやリレーなどの勝敗を受け入れること。「公正」
- オ 小型ハードル走で互いの動きを見合ったり、高跳びで動きのよさや課題を伝え合ったりするなどの際に、友達の考えを認めること。「共生」
- カ 小型ハードル走をする場所や幅跳びをする砂場などの危険物を取り除くとともに、用具の安全を確かめること。「健康・安全」



上記のように**解説**の指導内容には「愛好的態度」という言葉では示されていませんが、評価においては「主体的に取り組む態度」として「愛好的態度」、「公正・協力」、「責任・参画」、「共生」、「健康・安全」の各項目に分けて評価の視点を整理します。（P.11 P.44～ 参照）

Q9 障害のある児童、または運動が苦手な児童や運動に意欲的でない児童への支援はどのようにしたらいいですか？

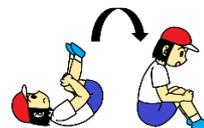
A 障害のある児童などについては、学習活動を行う場合に生じる困難さに応じた指導内容や指導方法の工夫を計画的、組織的に行うことが求められます。また、障害の有無を超えたスポーツの楽しみ方の指導の充実として、合理的な配慮に基づき障害の有無にかかわらずスポーツをとともに楽しむ工夫をする経験は、スポーツを通じた共生社会の実現につながる学習機会です。学習指導要領で示される領域の指導内容は、「知識及び技能」、「思考力、判断力、表現力等」及び「学びに向かう力、人間性等」で示されていることから、「思考力、判断力、表現力等」や「学びに向かう力、人間性等」の指導内容との関連を図りながら、仲間の状況に応じてルールや場を工夫するなど、様々な楽しみ方や関わり方があることを学ぶ機会とすることなども考えられます。<sup>2)</sup>

また、「運動（遊び）が苦手な児童への配慮の例」が、解説の「知識及び技能」の例示に、「運動（遊び）に意欲的でない児童への配慮の例」が、解説の「学びに向かう力、人間性等」の例示に、領域ごとに明記されていますので、授業づくりの参考にしてください。

◎ 運動（遊び）が苦手な児童への配慮の例（解説 知識及び技能の例示より）

＜器械運動系＞マットを使った運動遊び（第1・2学年）

- ・前や後ろへ転がるのが苦手な児童には、体を丸めて揺れるゆりかごに取り組んだり、傾斜のある場で勢いよく転がるように取り組んだりして、転がるための体の動かし方が身に付くように練習の仕方や場を設定するなどの配慮をする。



＜水泳運動系＞もぐる・浮く運動（第3・4学年）

- ・プールの底にタッチをする際、浮力の影響でもぐるのが苦手な児童には、息を吐きながらもぐることや手や足を大きく使うことを助言したり、水深が浅い場を設定したりするなどの配慮をする。



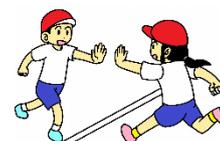
◎ 運動（遊び）に意欲的でない児童への配慮の例（解説 学びに向かう力、人間性等の例示より）

＜陸上運動系＞走の運動遊び（第1・2学年）

- ・かけっこでの競走など、競走（争）を好まない児童には、いろいろな走り方や跳び方で勝敗を競わずに楽しめる場を設けたり、行い方を工夫したりするなどの配慮をする。

＜体づくり運動系＞体ほぐしの運動（第5・6学年）

- ・仲間との身体接触を嫌がる児童には、バトンやひもなどの用具を使って触れ合う運動を工夫するなどの配慮をする。



## Q10 領域ごとの運動やスポーツの特性は何ですか？

A 豊かなスポーツライフを考える上で、運動の特性を大切にしたい授業づくりは欠かせません。これまでに要領では、各運動で味わえる楽しさや魅力、そしてその結果、その運動で、学べることを運動の特性として大切にしてきました。<sup>3)</sup>

解説の「運動領域の内容とねらい」には次表のように示されています。

体づくり運動系	体づくり運動系は、体を動かす楽しさや心地よさを味わい運動好きになるとともに、心と体との関係に気付いたり、仲間と交流したりすることや、様々な基本的な体の動きを身に付けたり、体の動きを高めたりして、体力を高めるために行われる運動です。
器械運動系	器械運動系は、「回転」、「支持」、「懸垂」等の運動で構成され、様々な動きに取り組んだり、自己の能力に適した技や発展技に挑戦したりして技を身に付けたときに楽しさや喜びを味わうことのできる運動です。
陸上運動系	陸上運動系は、「走る」、「跳ぶ」などの運動で構成され、自己の能力に適した課題や記録に挑戦したり、競走（争）したりする楽しさや喜びを味わうことのできる運動です。
水泳運動系	水泳運動系は、水の中という特殊な環境での活動におけるその物理的な特性（浮力、水圧、抗力・揚力など）を生かし、「浮く」、「呼吸する」、「進む」などの課題を達成し、水に親しむ楽しさや喜びを味わうことのできる運動です。
ボール運動系	ボール運動系は、競い合う楽しさに触れたり、友達と力を合わせて競争する楽しさや喜びを味わったりすることができる運動です。
表現運動系	表現運動系は、自己の心身を解き放して、イメージやリズムの世界に没入してなりきって踊ったり、互いのよさを生かし合って仲間と交流して踊ったりする楽しさや喜びを味わうことのできる運動です。

解説には上表のほかに、各領域の内容のまとめごと（低・中・高学年のまとめ）に運動の特性（内容とねらい）も示されています。

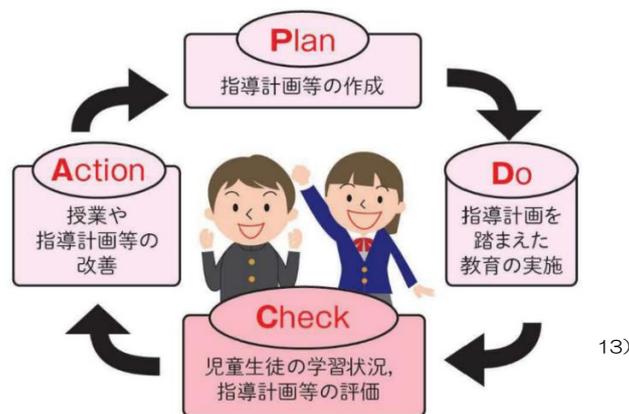
例：器械運動系

- 器械・器具を使つての運動遊びは、「固定施設を使った運動遊び」、「マットを使った運動遊び」、「鉄棒を使った運動遊び」及び「跳び箱を使った運動遊び」で内容を構成している。これらの運動遊びは、様々な動きに楽しく取り組み、基本的な動きや知識を身に付けたときに喜びに触れ、その行い方を知ることのできる運動遊びである。
- 器械運動は、中・高学年ともに「マット運動」、「鉄棒運動」及び「跳び箱運動」で内容を構成している。これらの運動は、技を身に付けたり、新しい技に挑戦したりするときに楽しさや喜びに触れたり、味わうことのできる運動である。また、より困難な条件の下でできるようになったり、より雄大で美しい動きができるようになったりする楽しさや喜びも味わうことができる。

## Q11 カリキュラム・マネジメントとは何ですか？

A 各学校においては、教科等の目標や内容を見通し、特に学習の基盤となる資質・能力（言語能力、情報活用能力、問題発見・解決能力等）や現代的な諸課題に対応して求められる資質・能力の育成のためには、**教科等横断的な**学習を充実することや、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善を、単元や題材など内容や時間のまとまりを見通して行うことが求められます。これらの取組の実現のためには、学校全体として、児童生徒や学校、地域の実態を適切に把握し、教育内容や時間の配分、必要な人的・物的体制の確保、教育課程の実施状況に基づく改善などを通して、教育活動の質を向上させ、学習の効果の最大化を図ります。これらの営みが**カリキュラム・マネジメント**です。<sup>2)</sup>

また、教育課程を充実させるためには、PDCA サイクルが円滑になされる必要があります。計画を立て、それを実施し、実施結果を評価し、評価結果を基にさらによりよい計画へと改善することで、教育効果を高めることができます。カリキュラム・マネジメントは、このサイクルを円滑に進めるための営みでもあります。<sup>5)</sup>



**要領「総則」**で「学校における体育・健康に関する指導を、児童の発達段階を考慮して、学校の教育全体を通じて適切に行うこと」と示されていることから、各教科や運動会、遠足、クラブ活動などの特別活動や教育課程外の活動と体育科の学習内容を相互に関連付けた年間計画を作成します。このことは、カリキュラム・マネジメントで強調されている教科横断的な取り組みにもつながっていきます。<sup>5)</sup>

### カリキュラム・マネジメントの例<sup>5)</sup>

- ・フォークダンスの授業とフォークダンスにかかわる歴史やその国の文化などをテーマに取り組む総合的な学習の時間での調べ学習
  - ・運動会、縄跳び月間などの学校行事等と関連付けて運動領域（陸上運動系や多様な動きを作る運動など）を配当する。
  - ・入学したばかりの1年生に生活科「学校・家庭及び地域の生活に関する内容」と関連付けて「固定施設を使った運動遊び」を設定し、安全やルールやマナーに気を付けて運動遊びができるようにし、休み時間等での安全で楽しい遊びにつなげる
- ※年間指導計画におけるカリキュラム・マネジメントについてはQ15（P.39～）を参照

### Q12 効果的な発問はどんなものがありますか？

A 発問は、単元の内容に興味・関心を持たせたり、学習内容に引き込んだりするため、児童の思考を揺さぶり、考えを深める際にもとても重要と言えます。過去に学習した知識の記憶を呼び戻すための発問や、相手に分かりやすく伝えることを通して自身の知識の整理を促す発問、発想を広げたり、様々な情報から課題解決につながる回答を絞り込んだりする発問、意思決定をもたらす発問などが考えられます。<sup>8)</sup>

発問例 3年生 ゲーム「ゴール型」タグラグビー <sup>14)</sup>

ねらい	ボールを持っているときに、前に進むためにはどうしたらよいか考えよう	ボールを持っていない人は何をしたらよいか考えよう
発問	ボールを持っているとき、目の前に相手がいなければ何をしますか。相手がいれば何をしますか。	ボールを持っていない人は、何をしたらよいですか。
さらに思考を促す補助発問	どうして、タグを取られるまで前に走り続けたほうがよいのですか。	どうして、ボールを持っていない人は、ボールを持っている人の横や後ろにいた方がよいのですか。

### Q13 学びに向かう力、人間性等とは何ですか？

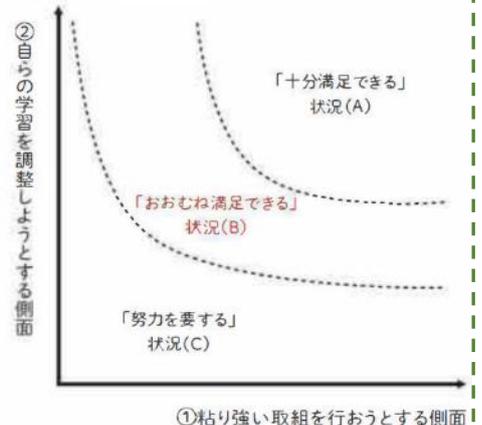
A 「学びに向かう力、人間性等」については、目標において全体としてまとめて示し、指導事項のまとめごとに内容を示さないことを基本としています。<sup>2)</sup>「主体的に学習に取り組む態度」の評価については、「粘り強い取り組みを行おうとしている側面」と「自ら学習を調整しようとする側面」の二つの側面を評価することが求められます。これらの姿は実際の教科等の学びの中では別々ではなく相互に関わり合いながら立ち現れるものと考えられます。例えば、自らの学習を全く調整しようせず粘り強く取り組み続ける姿や、粘り強さが全くない中で自らの学習を調整する姿は一般的ではありません。<sup>4)</sup>

運動領域においては豊かなスポーツライフを実現することを重視し、従前より「態度」を指導内容として示していることから、「学びに向かう力、人間性等」に対応した内容を示すこととしていきます。<sup>2)</sup>内容が示されていることから、指導する内容に対して、評価することが求められます。※体育（運動領域）の内容についてはP.33参照

#### 「主体的に学習に取り組む態度」の評価のイメージ <sup>13)</sup>

○「主体的に学習に取り組む態度」の評価については、①知識及び技能を獲得したり、思考力、判断力、表現力等を身に付けたりすることに向けた粘り強い取組を行おうとする側面と、②①の粘り強い取組を行う中で、自らの学習を調整しようとする側面、という二つの側面から評価することが求められる。

○これら①②の姿は実際の教科等の学びの中では別々ではなく相互に関わり合いながら立ち現れるものと考えられる。例えば、自らの学習を全く調整しようせず粘り強く取り組み続ける姿や、粘り強さが全くない中で自らの学習を調整する姿は一般的ではない。



## Q14 12年間の系統性と校種間の連携とは何ですか？

A 生涯にわたる豊かなスポーツライフの実現に向けて、小学校から高等学校までの12年間を見通して、学習したことを実生活や実社会に生かし、運動の習慣化につなげ、豊かなスポーツライフを継続することができるよう各種の運動の基礎を培う時期、多くの領域の学習を経験する時期、卒業後も運動やスポーツに多様な形で関わるができるようにする時期といった発達の段階のまとまりを踏まえ、幼稚園並びに中学校との接続を重視し、系統性を踏まえた指導内容の一層の明確化を図ることとしています。<sup>2)</sup>

運動領域等	各種の運動の基礎を培う時期				多くの領域の学習を経験する時期				卒業後も運動やスポーツに多様な形で関わるができるようにする時期			
	小学校				中学校				高等学校			
	1年生	2年生	3年生	4年生	5年生	6年生	1年生	2年生	3年生	入学年次	次の年次	それ以降
運動領域等	体づくりの運動遊び		体づくり運動		体づくり運動		体づくり運動		体づくり運動		体づくり運動	
	器械・器具を使った運動遊び		器械運動		器械運動		器械運動		器械運動		器械運動	
	走・跳の運動遊び		走・跳の運動		陸上運動		陸上競技		陸上競技		陸上競技	
	水遊び		水泳運動		水泳運動		水泳		水泳		水泳	
	表現リズム遊び		表現運動		表現運動		ダンス		ダンス		ダンス	
保健領域等	ゲーム		ゲーム		ボール運動		球技		球技		球技	
							武道		武道		武道	
年間授業時数等	102時間	105時間	105時間	105時間	90時間	90時間	105時間	105時間	105時間	体育 3年間で7~8単位 保健 1単位		

必修 [選択]

教育課程の編成においては、各学校が主体的に行うことが大切です。その際、「指導計画の作成と内容の取扱い」を踏まえて、6年間を見通しをもった年間指導計画を作成することとなりますが、運動領域と保健領域の指導内容の関連を踏まえること、体育・健康に関する指導につながる健康安全・体育的行事等との関連について見通しをもつことなど、体育科を中心とした「カリキュラム・マネジメント」の視点から年間指導計画を立てることが大切です。<sup>2)</sup>

## Q15 年間指導計画はどのように立てたらいいですか？

A PDCAサイクルのplanにあたる年間計画は、1年間の授業計画を示したものです。この計画に基づいて行われた実践を通して、学習指導要領に示されている目標を達成し、当該校の教育目標の具現化を図ることになるため、極めて重要な計画です。この計画作成にあたっては、小学校6年間を見通しを持つのはもちろん、幼稚園教育及び中学校教育との接続を十分考慮して、各学年の目標や内容、授業時数、単元配当を的確に定め、年間を通して体育的活動が豊かに実践されるように、調和のとれた年間計画を作成する必要があります。<sup>5)</sup>

小学校体育の年間標準時数は、以下の通りです。この時間は、学校教育法施行規則によって定められています。この総時数の範囲内で各運動領域・保健領域の時数を配分します。

1年	2年	3年	4年	5年	6年
102	105	105	105	90	90

年間指導計画の例 3学期 (○囲み数字 単位：時間)

	第1学年	第2学年	第3学年	第4学年	第5学年	第6学年
4月	体ほぐしの運動遊び ③	体ほぐしの運動遊び ③	体ほぐしの運動 多様な動きをつくる運動 パランスをとる運動 体を移動する運動 ⑥	体ほぐしの運動 多様な動きをつくる運動 パランスをとる運動 力強い運動 ⑥	体ほぐしの運動 ③	体の動きを高める運動 動きを持續する能力を高める運動 ③
5月	固定施設 ③	固定施設 ③	走・跳の運動 かけっこ 投の運動 ⑦	走・跳の運動 かけっこ 投の運動 ⑦	陸上運動 短距離走 投の運動 ⑦	陸上運動 短距離走 投の運動 ⑦
6月	走の運動遊び かけっこ・リレー ⑥	走の運動遊び かけっこ・リレー ⑥	バスケットボール型ゲーム 攻める側がボールを蹴って行う楽しいゲーム 静止したボールを打って行う楽しいゲーム ⑩	ゴール型ゲーム タグラビーを基にした 楽しいゲーム ⑫	ゴール型 バスケットボールを基にした 簡易化されたゲーム ⑩	ゴール型 サッカーを基にした 簡易化されたゲーム ⑩
7月	リズム遊び ④	リズム遊び ④	保健 健康な生活 ④	保健 体の発育と健康 ④	保健 心の健康 ④	保健 病気の予防 ④
8月	多様な動きをつくる運動遊び パランスをとる運動遊び ⑥	多様な動きをつくる運動遊び パランスをとる運動遊び ⑥	水泳運動 ⑤	水泳運動 ⑤	水泳運動 ⑤	水泳運動 ⑤
9月	マットを使った運動遊び ⑤	マットを使った運動遊び ⑤	体ほぐしの運動 多様な動きをつくる運動 体を移動する運動 用具を操作する運動 ⑥	体ほぐしの運動 多様な動きをつくる運動 用具を操作する運動 力強い運動 ⑥	体ほぐしの運動 体の動きを高める運動 体の柔らかさ 巧みな動きを高める運動 ⑥	体ほぐしの運動 体の動きを高める運動 体の柔らかさ 巧みな動きを高める運動 ⑥
10月	水遊び ⑤	水遊び ⑤	走・跳の運動 かけっこ・リレー 小型ハードル走 ⑦	走・跳の運動 かけっこ・リレー 小型ハードル走 ⑦	陸上運動 短距離走・リレー ④	陸上運動 短距離走・リレー ④
11月	体ほぐしの運動遊び ③	体ほぐしの運動遊び ③	表現運動 リズムダンス ⑤	表現運動 リズムダンス ⑤	表現運動 表現 ⑤	表現運動 フォークダンス ⑤
12月	固定施設 ②	固定施設 ②	ゴール型ゲーム ミニサッカーを基にした 楽しいゲーム ⑫	ネット型ゲーム 子どもの遊びを基にした 楽しいゲーム プレールボールを基にした 楽しいゲーム ⑫	陸上運動 ネット ⑧	陸上運動 ネット ⑧
1月	多様な動きをつくる運動遊び 体を移動する運動遊び ⑥	多様な動きをつくる運動遊び 用具を操作する運動遊び ⑤	走の運動遊び リレー遊び ⑤	走の運動遊び リレー遊び ⑤	ネット型 ソフトバレーボールを基にした 簡易化されたゲーム ⑩	ネット型 ソフトバレーボールを基にした 簡易化されたゲーム ⑩
2月	走の運動遊び リレー遊び ④	走の運動遊び リレー遊び ④	表現運動 リズムダンス ⑤	表現運動 リズムダンス ⑤	陸上運動 走り高跳び ⑥	陸上運動 走り高跳び ⑥
3月	リズム遊び ③	リズム遊び ③	鬼遊び ⑥	鬼遊び ⑥	陸上運動 走り高跳び ⑥	陸上運動 走り高跳び ⑥
4月	表現遊び ③	表現遊び ③	ゴール型ゲーム ミニサッカーを基にした 楽しいゲーム ⑫	ネット型ゲーム 子どもの遊びを基にした 楽しいゲーム プレールボールを基にした 楽しいゲーム ⑫	保健 けがの防止 ④	保健 病気の予防 ④
5月	鬼遊び ⑥	鬼遊び ⑥	マット運動 ⑦	マット運動 ⑦	鉄棒運動 ⑤	鉄棒運動 ⑤
6月	鉄棒を使った運動遊び ⑤	鉄棒を使った運動遊び ⑤	走・跳の運動 幅跳び ⑥	走・跳の運動 幅跳び ⑥	体ほぐしの運動 体の動きを高める運動 巧みな動き・力強い動きを高める運動 ⑥	体ほぐしの運動 体の動きを高める運動 自己やグループで考えたり運動 ⑥
7月	跳の運動遊び ケンパー跳び遊び ゴム跳び遊び ⑥	跳の運動遊び ケンパー跳び遊び ゴム跳び遊び ⑥	多様な動きをつくる運動 基本的な動きを組み合わせる運動 ⑤	多様な動きをつくる運動 基本的な動きを組み合わせる運動 ⑤	マット運動 ⑤	跳び箱運動 ⑤
8月	ボール投げゲーム 的当てゲーム ⑦	ボール投げゲーム 相手コートに投げ入れるゲーム ⑤	走・跳の運動 幅跳び ⑥	走・跳の運動 幅跳び ⑥	ベースボール型 ソフトボールを基にした 簡易化されたゲーム ⑩	ベースボール型 ソフトボールを基にした 簡易化されたゲーム ⑩
9月	多様な動きをつくる運動遊び 用具を操作する運動遊び ⑥	多様な動きをつくる運動遊び カ試しの運動遊び ⑥	跳び箱運動 ⑥	跳び箱運動 ⑥	表現 ⑥	表現 ⑥
10月	跳び箱を使った運動遊び ⑤	跳び箱を使った運動遊び ⑤	表現 ⑥	表現 ⑥	ベースボール型 ソフトボールを基にした 簡易化されたゲーム ⑩	ベースボール型 ソフトボールを基にした 簡易化されたゲーム ⑩
11月	鬼遊び ⑤	鬼遊び ③	ネット型ゲーム 子どもの遊びを基にした 楽しいゲーム ⑫	ベースボール型ゲーム 静止したボールを打って行う 楽しいゲーム ⑩		
12月	ボールけりゲーム シュートゲーム ⑦	ボールけりゲーム 攻めがボールを蹴って行うゲーム ⑤				

年間指導計画を立てる際の留意点<sup>5)</sup>

「⇒」は前ページの年間指導計画に当てはまる具体例



### 1. 学校教育全体との関連性

◇各教科や学校行事、特別活動や教育課程外の活動と体育科の学習内容を相互に関連付けた年間計画を作成する。

⇒10月の運動会に関連して全学年とも走種目とリレー、表現運動系を9～10月に設定する。

⇒タグラグビーの大会に学校代表が参加しているため、4年のゴール型(ゲーム)にタグラグビーを基にしたゲームを設定する。

◇小学校入学当初において生活科を中心に合科的・関連的な指導を行う工夫(スタートカリキュラム)が重要である。

⇒生活科「学校・家庭及び地域の生活に関する内容」と関連付けて「固定施設を使った運動遊び」を設定し、安全やルールやマナーに気を付けて運動遊びができるようにする。

### 2. 児童や学校の実態把握

◇子どもたちの実態に基づいた計画の作成・実施・評価・改善

⇒新体カテストの結果などから体の動かし方や感覚の向上が必要と判断したため、「体づくり運動系」、「器械運動系」を各学年に十分に設定する。

◇自然環境や施設、設備、用具などの学校の実態に応じた計画

⇒体育館の用具の準備、片付けをスムーズに行うため、「器械運動系」や「ボール運動系」などの内容を同じ時期に行うよう設定する。

### 3. 指導時間の配分

◇運動のまとまりの数によって比例配分するような機械的な時数の振り分けは行わない。

◇それぞれの運動領域は低・中・高学年の3段階2学年単位で構成し、2年間の中で、各領域の運動を取り上げて学習する。

⇒「体づくり運動系」は、1・2、3・4学年の「多様な動きをつくる運動(遊び)」、5・6学年の「体の動きを高める運動」をそれぞれ2年間の中で各運動を設定する。

⇒5・6学年の「表現運動」は5学年で「表現」、6学年で「フォークダンス」を設定する。

◇子どもや学校の実態に応じて重点的に取り扱う運動は時数を多く配分する。

⇒新体カテストや普段の様子から投げる動作、能力に課題があると判断して、3・4、5・6学年で「投の運動」を設定し、3・4学年ではボール投げで動きを高め、5・6学年ではジャベリックボール投げの用具が揃っているため、力強く投げる動きを高めるようにする。

◇主体的・対話的で深い学びを実現するために必要な時間や指導する内容の習得に必要な時間等を考慮して時数を配分する。

⇒中・高学年の「ボール運動系」において、ゲーム形式に慣れながら技能の習得を図るために、まとまった時間が必要なため、時数を多く設定する。

◇保健の授業は、3・4学年の2年間で8単位時間程度、5・6学年の2年間で16単位時間程度配当する。

◇その他、**要領**の「内容の取扱い」に示されていることを考慮して設定する。

⇒3・4学年の「ゲーム」のゴール型ゲームについては、「味方チームと相手チームが入り混じって得点を取り合うゲーム及び陣地を取り合うゲーム」を取り扱うことになったため、その他のゴール型やネット型、ベースボール型とのバランスを考えて設定する。

3学年：ゴール型ゲーム（得点を取り合うゲーム）

「ミニサッカーを基にした易しいゲーム」 12時間

ネット型ゲーム 「子供の遊びを基にした易しいゲーム」 6時間

ベースボール型ゲーム 「攻める側がボールを蹴って行う易しいゲーム」

「静止したボールを打って行う易しいゲーム」 12時間

4学年：ゴール型ゲーム（陣地を取り合うゲーム）

「タグラグビーを基にした易しいゲーム」 12時間

ネット型ゲーム 「子供の遊びを基にした易しいゲーム」

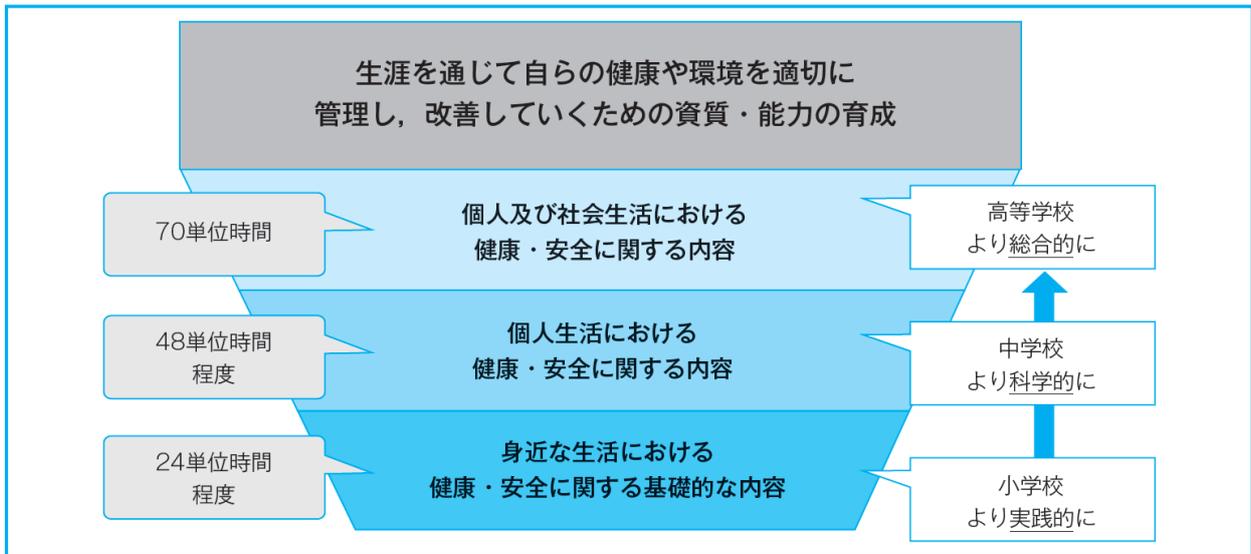
「プレルボールを基にした易しいゲーム」 12時間

ベースボール型ゲーム 「静止したボールを打って行う易しいゲーム」 6時間

⇒5・6学年の「体づくり運動」については、「体の柔らかさ及び巧みな動きを高めることに重点を置いて指導するものとする」と示されているため、それぞれの学年に設定する。



○保健における内容の系統性<sup>16)</sup>



小学校では、5つの単位について学習しますが（24単位時間程度）、中学校、高等学校においても小学校とおおむね同様の内容を繰り返し学習するのも保健の特徴です。発達の段階に応じた指導を工夫することが求められます。

小学校体育科保健領域		中学校保健体育科保健分野			高等学校保健体育科「科目保健」
3・4年	5・6年	1年	2年	3年	入学年次及びその次の年次
身近な生活における健康・安全に関する基礎的な内容		個人生活における健康・安全に関する内容			個人及び社会生活における健康・安全に関する内容
健康な生活		健康な生活と疾病の予防			現代社会と健康
体の発育・発達		心身の機能の発達と心の健康			安全な社会生活
心の健康					生涯を通じる健康
けがの防止		傷害の防止			健康を支える環境づくり
病気の予防		健康と環境			

（参考1）学習場面における具体的な姿の設定について

「単元目標」と「単元の評価規準」(P.12)を踏まえ、評価場面や評価方法等を計画します。どのような評価資料（児童の反応やノート、ワークシート、作品等）を基に評価するか、「努力を要する」状況（C）の児童への手立てをどうするかなどを考えます。（「指導と評価の計画」P.14）

授業では、この「指導と評価の計画」に沿って観点別学習状況の評価を行い、児童の学習改善や教師の指導改善を行います。

単元を通して集めた評価資料やそれに基づく評価結果などから、観点ごとの総括的評価（A、B、C）を行います。

☆評価規準を基にした児童の具体的な姿の設定例

「単元の評価規準」から指導内容、児童の実態等を踏まえて「おおむね満足できる」状況（B）にあたる具体の学びの姿、「努力を要する」状況（C）への手立てを設定します。

〈運動領域〉「マットを使った運動遊び」（第2学年）の例<sup>4)</sup>

観 点	単元の評価規準	「おおむね満足できる」状況（B） （ ）内は評価方法の例	「努力を要する」状況 （C）への手立て
知 識	マットを使った運動遊びの行い方について、言ったり実際に動いたりしている。	マット遊びで行っているいろいろな遊び方の特徴を言ったり書いたりしている。（観察） マットの上でのいろいろな遊び方をしようとしている。（観察）	学習内容を確認する発問 学習活動に導く発問
技 能	マットに背中や腹などをつけていろいろな方向に転がって遊ぶことができる。	前転がり、後ろ転がり、だるま転がり、丸太転がりなどいろいろな転がり方を試し、遊んでいる。（観察・ICT）	教師による師範動きを導く場の工夫 動きを促す指示
	手や背中で支えて逆立ちをしたり、体を反らせたりして遊ぶことができる。	背支持倒立、壁登り倒立、補助倒立などいろいろな倒立の行い方を試し、遊んでいる。（観察） 仰向けや倒立からのブリッジを試し、遊んでいる。（観察）	教師による師範動きを導く場の工夫 動きを促す指示 個別支援
思 考 ・ 判 断	坂道やジグザグなどの複数のコースでいろいろな方向に転がることのできるような場を選んでいる。	坂道やジグザグなどのコースの特徴に応じて、いろいろな転がり方を選び、遊んでいる。（観察） 自分のしたい転がり方が行いやすい場を選び、遊んでいる。（観察）	思考を促す発問、指示 思考を促す場の工夫
	腕で支えながら移動したり、逆さまになったりする動きを選んでいる。	アザラシ歩きなど動物の真似をした動きや、アンテナやブリッジなど建造物をイメージした動きのうち、自分がしたい動きを選び、遊んでいる。（観察）	思考を促す発問、指示 思考を促す場の工夫

表現	友達のよい動きを見付けたり、自分で考えたりしたことを友達に伝えたり書いたりしている。	友達の動きを見て、楽しいところや工夫しているところなどを友達や教師に伝えている。(観察) 自分の動きやグループでの遊び方で工夫したことを言ったり書いたりしている。(観察・カード)	自分の考えやイメージを出させる発問 表現するヒントを与える発問
愛好的な態度	動物の真似をして腕で支えながら移動したり、転がったりするなどの運動遊びに進んで取り組もうとしている。	アザラシ歩き、クマ歩き、ウサギ跳び、カエル跳びなど、動物などの真似をした遊び方を試したり、前転がりや後ろ転がりなどの転がり方を試したりしている。(観察・カード) いろいろな運動遊びに繰り返し取り組んでいる。(観察・カード)	学習活動に導く働きかけ 学習への意欲に導く働きかけ 態度を促す雰囲気づくり
公正・協力	順番やきまりを守り誰とでも仲よく運動遊びをしようとしている。	自分の順番を守り、遊んでいる。(観察) 遊び方の約束を守り、回ったり跳んだりしている。(カード) グループの友達と仲よくマット遊びをしている。(観察)	個別支援
責任・参画	場の準備や片付けを友達と一緒にしようとしている。	友達と協力してマットや用具の準備や片付けをしたり、声をかけ合って平均台を運んだりしている。(観察)	 
共生	(低学年においては内容に示されていない)		
健康・安全	場の安全に気を付けている。	マットのずれを見逃さずに整えたり、危険な回り方をしないようにしたりしている。(観察)	

☆「努力を要する」状況(C)への立て<sup>7)</sup>

手立てとしては、まず何につまずいているのか、原因は何なのかを把握し、具体的な例示や示範、思考を促す発問、授業の雰囲気づくり、教材・教具の工夫等を行うとともに、個別支援や集団への働きかけ等を行います。

☆「十分満足できる」状況(A)の設定例<sup>4)</sup>

- ・知識：より詳しく言ったり書いたりしている姿、実際に正確に行っている姿など
- ・技能：「連続して」「滑らかに」「安定して」などの、よりよくできる姿など
- ・思考・判断：自分なりにさらに工夫しようとしていることが行動や言葉として表出される姿など
- ・表現：多様な表現方法を用いて友達や教師に伝えたり、カードに書いたりする姿など
- ・愛好的な態度：意欲的に取り組もうとしている姿など
- ・公正や協力に関する態度：公平・公正な態度と友達をよりよく支えようとしている姿など
- ・責任や参画に関する態度：自分の役割を十分に果たそうとしている姿など
- ・共生に関する態度：違いを認め、自分事として引き取ろうとしている姿など  
(低学年においては内容に示されていない)
- ・健康・安全に関する態度：友達の安全の確保にも留意し、行動する姿など

※「十分満足できる」状況（A）を設定する場合、あくまでも「単元の評価規準」に対しての「A」の状況であり、上の学年の内容ができた（身に付けた）から「A」とはならないよう注意します。

例：3・4学年のマット運動 指導内容：「前転」

- 「前転」を連続して、安定して行うことができるから「A」
- × 5・6学年の内容である「開脚前転」ができたから「A」

〈保健領域〉「体の発育・発達」（第4学年）の例<sup>4)</sup>

観点	単元の評価規準	「おおむね満足できる」状況（B）	「努力を要する」状況（C）への手立て
知識	体の発育・発達について、身長、体重などは年齢に伴って変化すること、個人差があることについて、理解したことを言ったり書いたりしている。	身長や体重などは年齢に伴って変化することや個人差があることについて、理解したことを言ったり書いたりしている。（観察・学習カード）	学習内容を定着させる説明 学習内容を振り返らせる発問 ・個別支援
	思春期には、体つきに変化が起こり、人によって違いがあるものの、男子はがっしりした体つきに、女子は丸みのある体つきになるなど、男女の特徴が現れることについて、理解したことを言ったり書いたりしている。	思春期には、体つきに変化が起こり、人によって違いがあるものの、男子はがっしりとした体つきに、女子は丸みのある体つきに代わるなど、男女の特徴が表れることについて、理解したことを言ったり書いたりしている。（観察・学習カード）	
	思春期には、初経、精通、変声、発毛が起こり、また、異性への関心も芽生えること、これらは、個人差があるものの、大人の体に近づく現象であることについて、理解したことを言ったり書いたりしている。	思春期には、初経、精通、変声、発毛が起こり、異性への関心も芽生えることについて、言ったり書いたりしている。（観察・学習カード） これらは個人差があるものの、大人の体に近づく現象であることについて、理解したことを言ったり書いたりしている。（観察・学習カード）	
	体をよりよく発育・発達させるための生活の仕方には、体の発育・発達によい運動、バランスのとれた食事、適切な休養及び睡眠などが必要であることについて、理解したことを言ったり書いたりしている。	体をよりよく発育・発達させるための生活の仕方には、体の発育・発達によい運動、バランスのとれた食事、適切な休養及び睡眠などが必要であることについて、理解したことを言ったり書いたりしている。（観察・学習カード）	
技能	この単元は知識のみ（第5学年の「心の健康」「けがの防止」では知識として学んだことを「～について自らできる簡単な対処や手当ができる」状況として評価します）		

<p>思考・判断</p>	<p>身長や体重などの年齢に伴う体の変化や体の発育・発達に関わる生活の仕方から課題を見付けたり、思春期の体の変化について、学習したことを、自己の体の発育・発達と結び付けて考えたり、体をよりよく発育・発達させるための生活について、学習したことを自己の生活と比べたり、関連付けたりするなどして適切な解決方法を考えたりしている。</p>	<p>身長や体重などの年齢に伴う体の変化や体の発育・発達に関わる生活の仕方から課題を見付けている。(観察・学習カード)</p> <p>思春期の体の変化について、学習したことを、自己の体の発育・発達と結び付けて考えている。(観察・学習カード)</p> <p>体をよりよく発育・発達させるための生活について、学習したことを自己の生活と比べたり、関連付けたりするなどして適切な解決方法を考えている。(観察・学習カード)</p>	<p>学習内容を振り返らせる発問 気づきを促す発問 個別支援</p>
<p>表現</p>	<p>体の発育・発達について、自己の成長や体をよりよく発育・発達させるために考えたことを学習カードなどに書いたり、発表したりして友達に伝えている。</p>	<p>体の発育・発達について、自己の生活と比べたり、関連付けたりするなどして、体をよりよく発育・発達させるための方法を考えているとともに、考えたことを学習カードなどに書いたり、発表したりして友達に伝えている。(観察・学習カード)</p>	<p>自分の考えやイメージを出させる発問 表現するヒントを与える発問 個別支援</p>
<p>主体的に学習に取り組む態度</p>	<p>体の発育・発達について、課題の解決に向けての話合いや発表などの学習や教科書や資料などを調べたり、自分の生活を振り返ったりするなどの学習に進んで取り組もうとしている。</p>	<p>「粘り強い取組を行おうとする側面」</p> <p>体の発育・発達について、課題の解決に向けての話合いや発表などの学習や教科書や資料などを調べたり、自分の生活を振り返ったりするなどの学習に進んで取り組んでいる。(観察・学習カード)</p> <p>「自らの学習を調整しようとしている側面」</p> <p>体をよりよく発育・発達させるために、よりよい生活の仕方についての改善策を記載する際に、友達と話し合ったり、自己のこれまでの生活と比較したりする中で、具体的な改善策を示したり、修正したりしている。(観察・学習カード)</p>	<p>学習への意欲に導く働きかけ 学習内容を振り返らせる発問 具体的に考えさせる発問 個別支援</p>

※知識を評価する場合、これまでの学習状況の定着と合わせて、ペーパーテストを活用することも一つの方法として考えられます。

☆「努力を要する」状況（C）への手立て<sup>4)</sup>

「おおむね満足できる」状況に達していない場合、その状況に達するように、その後の指導や支援を工夫することが必要です。新たな発問を加える、具体例で考えさせる、一例を挙げさせてみる、友達と意見を交流させてみるなど、それぞれの場面に応じた工夫が求められます。さらに、評価の重点には示していなくとも、「努力を要する」状況と判断した児童については、追ってその状況を観察していくことが考えられます。

☆「十分満足できる」状況（A）の設定例<sup>4)</sup>

- 知識：理解したことに加え、グラフから読み取ったことや自分の生活から気付いたことなどを言ったり書いたりしているなど
  - 技能：状況に応じて対処（手当）できる姿など
  - 思考・判断：理由を明確にして、課題を見付けているなど
  - 表現：解決方法を考えるとともに、その解決方法の根拠を明らかにして友達に伝えているなど
  - 主体的に取り組む態度
- 粘り強い取組を行おうとする側面  
：毎時の学習を生かしながら、学習に自ら進んで取り組んでいる態度など
- 自らの学習を調整しようとしている側面  
：より明確にしたり、修正したりするために、新しい資料を見付けたり、さらに知ろうと質問したりしようとする態度など

※保健領域における「技能」について<sup>4)</sup>

保健領域における「技能」は、健康な生活における基礎的・基本的な技能であり、実習を通して理解したことができているかを評価します。そのようなことから、指導内容に「技能」が位置付いている単元の「知識・技能」の評価は、知識と技能を一体とするための評価規準を設ける必要があります。また、ここでは、知識及び技能を一体とするための実習を含む授業展開や評価に役立つ学習カード等を工夫することが求められます。

※「主体的に学習に取り組む態度」について<sup>4)</sup>

「主体的に学習に取り組む態度」の評価については、学習内容に関心をもつことのみならず、よりよく学ぼうとする意欲をもって学習に取り組む態度を評価する必要があります。その際、「粘り強い取組を行おうとする側面」と「自らの学習を調整しようとしている側面」の二つの側面を評価することが求められます。いずれの側面も、知識及び技能を習得させたり、思考力、判断力、表現力等を育成したりする場面に関わって評価していきます。「主体的に学習に取り組む態度」の評価は、育成に時間がかかる点に留意し、1時間ごとの画一的な評価ではなく、単元を通して見取っていくことが重要となります。



【参考2】【運動領域】学習指導案フォーマット

## 体育科学習指導案

指導者 運動 一郎

1 日時・場所 令和〇年〇月〇日（〇）〇校時 △△△

2 学年・組 〇年〇組 計〇名

3 単元名 「 」

4 単元について

(1) 単元観

(2) 児童観

(3) 指導観

5 単元の目標（学習のねらい）

(1) 「知識及び技能」

(2) 「思考力・判断力・表現力等」

(3) 「学びに向かう力、人間性等」

6 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度

7 指導と評価の計画（本時〇/〇）

時間	1	2	3	4	5	6
0						
45						
知・技						
思・判・表						
態 度						

8 本時について（本時〇/〇）

(1) 本時の目標

(2) 本時の展開

分	学習内容・活動 （・予想される児童の反応）	指導上の留意点 （○指導 □支援・配慮◆評価規準）
はじめ 〇分		
なか 〇分		
まとめ 〇分		

【参考3】【保健領域】学習指導案フォーマット

## 体育科学習指導案

指導者 保健 一郎

1 日時・場所 令和〇年〇月〇日（〇）〇校時 △△△

2 学年・組 〇年〇組 計〇名

3 単元名 「 」

4 単元について

（1）単元観

（2）児童観

（3）指導観

5 単元の目標（学習のねらい）

（1）「知識及び技能」

（2）「思考力・判断力・表現力等」

（3）「学びに向かう力、人間性等」

6 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度

7 指導と評価の計画（本時 / ）

時間	1	2	3	4	5	6
0						
45						
知・技						
思・判・表						
態 度						

8 本時について（本時 / ）

(1) 本時の目標

(2) 本時の展開

分	学習内容・活動 （・予想される児童の反応）	指導上の留意点 （○指導 □支援・配慮◆評価規準）
はじめ 〇分		
なか 〇分		
まとめ 〇分		

(参考4) 授業設計力チェックリスト<sup>17)</sup> ～指導計画作成にむけて～

そう思う：4 ややそう思う：3 ややそう思わない：2 そう思わない：1

/80

授業設計力に関する項目(20項目)	学習指導要領への理解	今改訂の趣旨を理解している	
		学習指導要領と解説の違いを理解している	
		学習指導要領解説から指導する内容を読み解くことができる	
		年間指導計画を作成する際の領域及び領域の内容の取扱いを理解している	
	カリキュラム・マネジメント	教科、教科外、学校教育活動の違いをイメージできる	
		年間指導計画を作成できる	
		2年間の指導内容から単元の指導事項の重点化の図り方を理解している	
		単元計画(一定のまとまりの時間)の作成方法を理解している	
	単元計画力	単元構造図を用いて単元計画を示すことができる	
		学力の3要素を取り入れた授業設計ができる	
		診断的評価、形成的評価、総括的評価をイメージした単元設計ができる	
		指導内容に適した教材や学習方法がイメージできる	
	評価規準	評価規準の語尾表記の仕方を理解している	
		単元の評価規準が作成できる	
		指導と評価のタイミングを図った評価計画を立てることができる	
		観点に応じた具体的な評価材料の収集ができる	
	教授方法、教材選択	教材の簡易化や修正する方法を理解している	
		思考力・判断力・表現力の指導事項に対応した指導スタイルや教材のイメージがもてる	
		学びに向かう力・人間性の指導事項に対応した指導スタイルや教材のイメージがもてる	
		支援を要する児童生徒への指導方法・教材がイメージできる	

(参考5) 授業の基本チェックリスト<sup>17)</sup> ～自分の授業を振り返ってみましょう～

◆基礎条件と内容条件を備えた授業を行えるようになれば、よい体育授業を行えるようになります。以下に示す条件を頼りに、ご自身の授業を振り返り、授業の改善に役立ててください。

●「基礎的条件」<sup>5)</sup>

よい体育授業を実現するための土台となる条件であり、学習成果を上げるための前提的な条件です。子どもたちがテキパキと行動し、授業の流れがよい「学習の勢い」と、子ども同士の関係も良好で明るく感情豊かな行動が出現する「学習の雰囲気」の2つの要因で構成されます。

そう思う：4 ややそう思う：3 ややそう思わない：2 そう思わない：1

196

授業実践力に関する項目・基礎的条件(24項目)	マネジメント	出席や点呼などリズムよく無駄な時間をかけず実施している	
		準備、片付け、集合などオフトask(授業従事外の時間)が最小限である	
		繰り返しが必要な基礎的な学習を毎時組み込んでいる	
		本時のねらいや生徒の活動の見通しを示している	
	話し方の技術	40人程度が入る教室であればマイク使わず隅々まで声が通る	
		聞き取りやすく活舌よく話している	
		抑揚をつけて話すなど重要なポイントを強調して相手に伝えられる	
		安心感のある周囲が話やすい雰囲気を作り出すことができる	
	ノンバーバル技術	相手の顔や目を見て話すようにしている	
		他者に伝える際、身振りや手ぶりを意識して使っている	
		安心感のある参加しやすい雰囲気づくりを心がけている	
		視点は、絶えず全体を見渡し、理解が不十分な参加者の細かい表情を見逃さない	
	板書技術	最後列の人でも文字が判別できる大きな字を書いている	
		黒板に、丁寧で読み取れる字を書いている	
		必ず直筆の板書を取り入れている	
		複数の色を使い分けている	
	個別支援	説明後は机間巡視をして理解状況を確認している	
		個別支援の際に、全体の進行が滞らない	
		障害や学力の違いに応じた配慮をしている	
		良さを伝えるなど肯定的働きかけをしている	
健康安全管理	運動種目に起きやすい怪我の事例と予防策を理解している		
	気温や天候の変化に応じた指示をしている		
	運動時には、人数や動きの制限など安全な場の確保をしている		
	危険を察知した時に、安全行動の確認やルール等の修正を即時にしている		

●「内容的条件」<sup>5)</sup>

体育授業の内容的な側面の良し悪しを問うときに求められる条件のことで、設定した学習目標・内容は学習者に明確に伝わっているか、教科目標や単元目標との関係から見てよかったのかなど、授業の目標や内容の妥当性からみた条件のことです。

そう思う：4 ややそう思う：3 ややそう思わない：2 そう思わない：1

/96

授業実践力に関する項目・内容的条件(24項目)	発問・応答	児童生徒の興味や思考が揺さぶられる問いがある	
		回答の浮かばない児童生徒に問いの修正をして思考を促している	
		答えの得やすい特定の生徒に頼らず発問をしている	
		支援を要する児童生徒にも状況に応じた発問をしている	
	称賛・受理	良い回答や動きに対して「何が良いか」を添えて称賛している	
		教員の意図しない回答についても感情を抑制し受け止めている	
		間違った回答や動きに対して、すぐに否定せず前向きな姿勢を受けいれている	
		支援を要する児童生徒の尊厳を守り積極的な参加を促している	
	プレゼン技術	端的に重要なポイントを示すことができる。	
		プレゼンソフトや ICT を効果的に活用し興味を高めている	
		重要な概念を具体例を添えて強調している	
		他者作成資料は、情報活用時のマナーを遵守している	
	座学の展開力	まとめは、本時のねらいと一致している	
		対話的な活動の機会だけでなく、活動によって導かれる深い学びが保証されている	
		専門用語を用いず平易なことばで説明している	
		科学的根拠に基づく事例や事象を適切に取り上げている	
	実技の技術指導	良い動きとつまずきのポイントを身体で表現できる	
		動きを分節化(局面を強調)して師範できる	
		動きのポイントをわかりやすく言語化している	
		観察から、個に応じたつまずきの改善策をみつけている	
教材展開力	ねらいに一致した教材が提供されている		
	児童生徒の状況に応じて課題が選択できる工夫をしている		
	教材を提供する際、行い方の説明だけでなく、何のためかが説明されている		
	児童生徒の学びに応じて、臨機応変に教材を入れ替えたり時間の調整をしたりしている		

## (参考6) 新型コロナウイルス感染症対策について

今後は、社会全体が、長期間にわたり、新型コロナウイルス感染症とともに生きていかなければならないという認識の下、感染症対策と児童の健やかな学びの保障の両立を図る必要があります。

### 1. 基本的な感染対策を継続する「新しい生活様式」の導入<sup>18)</sup>

まずは、児童が感染症を正しく理解し、感染のリスクを自ら判断し、これを避ける行動をとることができるよう、「新型コロナウイルス感染症の予防」資料等を活用して感染症対策に関する指導を行うことが必要です。

#### 「新しい生活様式」のポイント<sup>19)</sup>

- ・ 身体的距離の確保（できるだけ2m（最低1m））、マスクの着用、手洗い
- ・ 3密（密集、密接、密閉）の回避（こまめな換気、会話の際はできるだけ真正面を避ける）

### 2. 体育における運動時の留意点<sup>19)</sup>

「感染症対策を講じてもなお感染のリスクが高い学習活動」

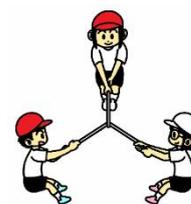
⇒「児童が密集する運動」や「近距離で組み合ったり接触したりする運動」<sup>18)</sup>

#### ○実技を伴う活動全般

- ・ 医療的ケアの必要な児童及び基礎疾患がある児童や、感染の不安により授業への参加を控えたい旨の相談があった児童には、児童、保護者の意向を尊重し、授業への参加を強制しないこと。
- ・ 体育授業や学習活動については、感染者が発生していない学校においても、児童や教職員の生活圏における感染状況を踏まえ、児童の感染に対する不安に配慮して実施の判断を行うこと。
- ・ マスクの着用は必要ないが、感染リスクを低減させるために、児童の間隔を十分確保する、換気を行う、不必要な発声は避ける、対面での話合いをしない、児童同士の近距離での活動は短時間で行うなどの措置をとること。

#### ○用具やボール等を共用する活動

- ・ 用具、ボール等の共用はできるだけ避け、やむを得ない場合は特定の少人数で使用し、適切な消毒と児童の手洗いを徹底すること。
- ・ 特に、直接装着する用具については、共用する場合は特定の少人数とし、こまめに消毒を行うなど、可能な限りの感染予防対策を行った上で着用すること。



#### ○ペアやグループでの活動

- ・ 1回の授業内ではペアやグループ、チームは特定し、グループ、チームについては5人程度から段階的に人数を増やすこととする。

#### ○体づくり運動系やボール運動系など、人が組んだり、入り乱れたりする活動（補助し合う活動を含む）

- ・ 激しい接触が頻繁に起こらないよう工夫し、不必要な身体接触を控えること。
- ・ 児童同士が近距離で組み合うことや、身体接触を伴う活動は15分未満にすること。
- ・ 常時身体接触を伴う活動については、可能な限りの感染予防対策を行っても、児童の安全を確保できないと判断される場合は、実施しないこと。

### 3. 体育における運動以外での留意点

運動以外の場面で感染リスクが高まる状況も想定し、対策を講じておきます。

例：「整列」すると子どもたちは思った以上に近付いてしまう ⇒ 床に位置をマーキング  
用具を取りに行く時に密集してしまう ⇒ あらかじめ複数箇所に配置  
盛り上がるとハイタッチしてしまう ⇒ チームで工夫させる

特に、活動と活動のつなぎの時間（活動の間の給水や移動など）に、密集したり、密接の状態では話したりすることが起こりやすいので、順番の指示や会話に注意するなどの対策が必要です。



### 4. 保健領域における留意点<sup>18)</sup>

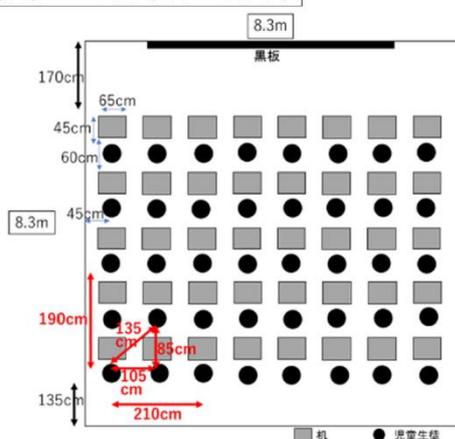
「感染症対策を講じてもお感染のリスクが高い学習活動」

⇒「児童が長時間、近距離で対面形式となるグループワーク等」及び「近距離で一斉に大きな声で話す活動」

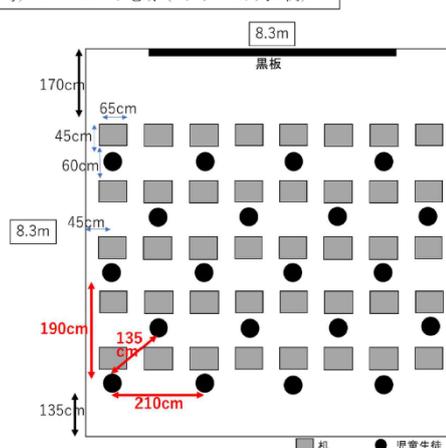
- ・児童の「接触」「密集」「近距離での活動」「向かい合っでの発声」について、可能なものは避け、一定の距離を保ち、同じ方向を向くようにし、また回数や時間を絞るなどして実施します。
- ・できるだけ個人の教材教具を使用し、児童同士の貸し借りはしないこと。器具や用具を共用で使用する場合は、使用前後の手洗いを行わせること。

#### 【座席配置の例】

(参考) レベル1地域 (1クラス40人の例)



(参考) レベル2・3地域 (1クラス20人の例)



※施設等の制約から1メートルの距離を確保できない場合には、できるだけ距離を離し、換気を十分に行うことや、マスクを着用することなどを併せて行うことより「3つの密」を避けるよう努めること。

感染症対策と児童の健やかな学びの保障の両立を図るために、常にリスクを想定すること、目の前で起きていることでリスクを感じたらすぐに対応することを忘れず、そのうえで児童が安心して運動（遊び）を楽しめる授業を心がけましょう。

#### 【引用・参考文献】

- 1) 文部科学省. 小学校学習指導要領. 2017
- 2) 文部科学省. 小学校学習指導要領解説 体育編. 2017
- 3) 白旗和也. 小学校 これだけは知っておきたい新「体育授業」の基本. 東洋館出版社. 2019
- 4) 文部科学省 国立教育政策研究所教育課程研究センター. 「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料 小学校 体育. 2020
- 5) 岩田靖, 吉野聡, 日野克博, 近藤智靖 編著. 初等体育授業づくり入門. 大修館書店. 2018
- 6) 横浜国立大学教育人間科学部附属教育デザインセンター. 若手の先生に贈る 20 のメッセージ. 2012
- 7) 神奈川県立体育センター. 高等学校保健体育 体育学習ハンドブック. 2013
- 8) 佐藤豊, 友添秀則. 楽しい体育理論の授業をつくろう. 大修館書店. 2011
- 9) 中央教育審議会. 幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善及び必要な方策等について（答申）（中教審第 197 号）. 2016
- 10) 中央教育審議会. 幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善及び必要な方策等について（答申）補足資料. 2016
- 11) 高田彬成, 横嶋剛. 資質・能力の育成に向けた授業づくり②：体育科における資質・能力の育成に向けた授業づくり. 初等教育資料 平成 30 年 7 月号. 2018
- 12) 中央教育審議会 初等中等教育分科会 教育課程部会. 児童生徒の学習評価の在り方について. 2010
- 13) 文部科学省 国立教育政策研究所教育課程研究センター. 学習評価の在り方ハンドブック 小・中学校編. 2019
- 14) 神奈川県立体育センター長期研究員 荒居晋太郎. 平成 30 年度体育センター長期研究報告「プレー原則が分かって適切な意思決定ができるようになるラグビーの学習」. 2019
- 15) 佐藤豊. 令和元年度全国都道府県・指定都市教育委員会学校体育担当指導主事研究協議会 「新学習指導要領に基づく指導と評価」
- 16) 文部科学省. 改訂「生きる力」を育む小学校保健教育の手引. 2020
- 17) 佐藤豊. 授業設計力分析シート
- 18) 文部科学省. 学校における新型コロナウイルス感染症に関する衛生管理マニュアル～「学校の新しい生活様式」～(2020.8.6 Ver.3)
- 19) 神奈川県教育委員会高校教育課. 県立高校等の今後の教育活動に関する留意事項について（通知）. 令和 2 年 7 月 10 日

#### 【イラスト】

○いらすとや かわいいフリー素材集 <http://www.irasutoya.com/>

○中辻圭介, 川村幸久. 掲示にもカードにも使える！体育授業のイラストコレクション：楽しい体育の授業 4月号 5月号 6月号 7月号 8月号 9月号. 明治図書. 2020

【学習指導要領等関係資料について】

学習指導要領や「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料などは、文部科学省や国立教育政策研究所のウェブサイトから閲覧が可能です。スマートフォンなどで閲覧する際は、以下の二次元コードを読み取って、資料に直接アクセスすることが可能です。

- 1 文部科学省 平成 29・30 年改訂 学習指導要領、解説等
- 2 国立教育政策研究所 教育課程研究センター 指導資料・事例集
- 3 文部科学省 幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善及び必要な方策等について（答申）（中教審第 197 号）
- 4 文部科学省 学校における新型コロナウイルス感染症に関する衛生管理マニュアル～「学校の新しい生活様式」～

1



2



3



4



本ハンドブックは、神奈川県立総合教育センター体育指導センター（令和元年度は神奈川県立体育センター）が作成しました。

令和元・2年度 研究アドバイザー（職名は令和2年4月現在）

佐藤 豊 桐蔭横浜大学 スポーツ健康政策学部 スポーツ教育学科 教授

令和元年度作成担当

神奈川県立体育センター 指導研究課

研修指導班

竹村 健二 田所 克哉 堀内 利紀 熊崎 貴之 福地 真一 伊藤 秀太郎 福澤 次郎  
西塚 祐一 大石 進

令和2年度作成担当

神奈川県立総合教育センター 体育指導センター 指導研究課

研修指導班

竹村 健二 内藤 誠 三橋 周作 熊崎 貴之 福地 真一 千葉 周平 福澤 次郎  
西塚 祐一 田村 幸久

授業研究班

瀬尾 一幸 田所 克哉

小学校の先生のための  
体育科授業づくりハンドブック  
～授業設計力向上に向けて～

発行

令和2年10月

発行者

神奈川県立総合教育センター体育指導センター  
〒251-0871 神奈川県藤沢市善行7-1-2  
TEL (0466) 81-2572 (代表)